

千早 赤阪

村民が主役のむらづくりに向けて



平成22年6月

“ちはやあかさか” まちづくり村民会議

目 次

1 .むらづくりの提言	1
むらの将来像	1
将来像の実現に向けて	2
・ 子どもを育て、親を育て、自分も育つ	3
・ 村民の健康を育てる	5
・ 村民の元気を育てる	6
・ むらびとのネットワークを育てる	8
2 .各グループの提言	10
第1グループ	10
第2グループ	14
第3グループ	17
3 .委員のアイデア提言	20
資料編	
資料1 /まちづくり村民会議設置要領	59
資料2 /まちづくり村民会議委員名簿	60
資料3 /まちづくり村民会議グループ別名簿	61
資料4 /全体スケジュール	62
資料5 /各グループの活動経過	63
資料6 /ワークショップの風景	81

1. むらづくりの提言

1. むらづくりの提言

むらの将来像

- ・村には、楠木正成や金剛山（こごせ）をはじめとした豊かな歴史、自然があります。
また、みんなが参加する祭り等も多く、さらに、子育てや教育にも目が行き届き、地域のコミュニティが息づいています。
- ・しかし、少子・高齢化が進み財政状況も厳しい中で、合併協議も2度破綻し、今まさに将来の村のあり方が問われています。
- ・今後は、村を大切に守り、良いところを生かし、磨き、村民同士や村外の人とを結び、人口や財政の課題をのりこえ、自信と誇りを持って自立できる村づくりを、村民と行政が手を携えて進めていきたいと考えています。
- ・私たちは、こんなむらづくりをめざしたいと思います。
 - 人づくり、ものづくりの村
 - 自然に囲まれて、ゆったり生活できる村
 - おおさかのふるさと生涯村
 - 元気！元気！みんなのふるさと千早赤阪村
 - みんなの力で生きぬく 元気ふるさと村 千早赤阪

《むらの将来像》

人づくり、ものづくりの村
自然に囲まれて、ゆったり生活できる村
おおさかのふるさと生涯村
元気！ 元気！ みんなのふるさと千早赤阪村
みんなの力で生きぬく 元気ふるさと村 千早赤阪

将来像の実現に向けて

基本方向

子どもを育て、親を育て、自分も育つ

～教育の充実が村を変える～

村民の健康を育てる

～みんな健康で病知らず～

村民の元気を育てる

～村民事業おこし～

むらびとのネットワークを育てる

～村民の力を結集したむらづくり～

将来像の実現に向けて

その1 子どもを育て、親を育て、自分も育つ

～教育の充実が村を変える～

村の現状は？ このままではどうなる？

○ 良いところ ▲ 悪いところ

- おじいちゃん、おばあちゃん、おねえちゃん、おにいちゃんみんなで子育てに参加しています。
- 子どもたちの学習態度が非常に良く、「教育の村」として発展してきました。
- 少人数で先生の目が届きやすく、徒歩通学で、幼稚園、保育園、小学校の頃から、しつけの良い中学生を育てています。
- 中学校の部活動が大変活発で、高校に入っても全国レベルの優秀な選手を輩出しています。
- 山村留学の受け入れの経験があります。
- ▲子どもの人数が減少し、地域に活気がない状況です。
- ▲保育園・学童保育の場所が遠く、子育てしにくい状況です。
- ▲子ども会活動等に対する保護者の関心が減っています。
- ▲ITの普及により、便利にはなったが、人々の考える力が低下する傾向にあります

方 針

「人」は村の宝であることを認識し、千早赤阪村の自然や歴史を生かした教育で人々の心を耕し、優秀で元気のある人材を生み育てましょう。

村をこうした教育の村として地域内外にPRし、子育て世代が村に移住しやすい環境を作り、村の宝を増やしていきましょう。

村のことを学び、それらを語りついでいける人を育てましょう。

地域の教育力を生かし、すべての村民が学習機会を共有し、共に育つ環境を作り出しましょう。

「地域の教育力」とは 自然環境や歴史環境、人と人とのつながりによって教育にもたらされる効果をいう。

具体的には？

- ・ 教育方針を村の特色を生かしたものと成熟させる。
- ・ 基本的な学ぶ力をつけるため、読書の習慣、そろばん、あいさつ運動など家庭や地域で出来ることから始める。
- ・ 幼小中一貫校を目標とし、少人数で目の行き届いた一貫した教育を進めていく。
- ・ 地域の行事を通して、世代間の絆を深める。
- ・ 既存施設を活用した村民大学を開講し、村について学ぶとともに、これからの村の人づくりのための多様なアイデアを生み出す箱づくり。
- ・ 村の子どもたちだけでなく、環境学習教室などを通して、村外の子どもたちへ村の魅力を伝えることにより、村民のアイデンティティを生み出す。
- ・ 人を育てることによって自分も育つ。



その2

村民の健康を育てる

～ みんな健康で病知らず ～

村の現状は？ このままではどうなる？

○ 良いところ ▲ 悪いところ

- 金剛山が身近にあるおかげで、健脚な人が多く、子どもたちの体力や身体能力も他市町より優れていると言われています。
- 高齢者と言われる年齢層の人が元気に活躍しています。
- 温和な人が多く、助け合いの精神が根づいています。
- 運動会では皆自分の地区を応援して、とても盛り上がります。
- ▲村の高齢化は大阪府内の平均よりも上回っており、60歳以上の村外への転出もみられます。
- ▲排他的、閉鎖的な一面もあります。

方 針

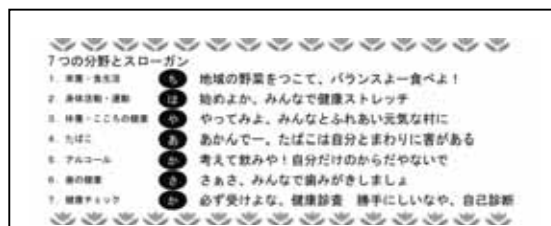
一人ひとりが健康づくりを心がけましょう。

村民の心のよりどころである金剛山を生かした健康づくりを進めましょう。

高齢になっても、家族や地域の助け合いのもとで、安心して楽しく暮らしていける村をめざしましょう。

具体的には？

- ・あいさつ運動と朝ごはん運動。
- ・金剛山へ登って目と心と体を鍛える。
- ・サイクリングコースの設定（3km、5km、10km）など体力や年齢によって選べるサイクリングモデルコースを設定し、村民や来訪者へ利用を呼びかける。
- ・健康ちはやあかさか21のPRと実践。
- ・独り暮らしの高齢者への配食サービスなど村の取り組みをもっとPRしてみんなが住みやすい村を印象づける。
- ・歴史探訪とセットになった健康づくり。



健康ちはやあかさか21より抜粋

その3

村民の元気を育てる

～村民事業おこし～

村の現状は？ このままではどうなる？

○ 良いところ ▲ 悪いところ

- 豊富な農地があり、農作物が豊かに育つ環境があります。
- 農業を大切にし、千早赤阪村特産農産物のブランド化に意欲を持つ人材がいます。
- 活用できる遊休農地や公共施設があります。
- 本気で村の収入を増やすことに取り組む必要があります。村には資源が豊かだから活かせるはずだと考えます。
- ▲現在でも、村の基幹産業は農業であるが、「業(生業)」とはいえない状況にあります。→500万円/年の農産物を生産することは難しい(収入の上がらない農業)。
- ▲千早赤阪村の農業はこのままでは10年もたないと考えます。
- ▲大型のスーパーマーケットの進出により、千早赤阪の直売所が影響を受ける可能性があります。

方 針

恵まれた自然資源、歴史資源を活用し、村民が元気になれるよう、活性化策に官民が協働して取り組みましょう。

豊富な農地と農作物を生かし、魅力ある村の特産物を作り、販売機能を強化し、交流人口を増やして村の活性化に励みましょう。

現在ある施設を生かし、新たな観光の拠点として整備していきましょう。

既存施設(道の駅・農産物直売所・自然休養村管理センター)の連携を図りましょう。

新規就農者を希望する人たちに、支援する制度を整え、空き家を活用した住環境を提供するなどして、若い世代の定住を図りましょう。



具体的には？

- ・ 集客のための実践的PR、詳細な情報提供、村の総合的な情報発信を民が担うことにより、スピードや質の向上をめざす。
- ・ 金剛山の集客力を生かし、金剛山入山料徴収など、雇用の創出や村の収入となるような方策を実践する。その財源を生かし、さらに村の活性化をパワーアップさせる。
- ・ 村の基幹産業である農業を守り育てるため、新規就農支援ネットワーク、新規就農者支援制度をつくり担い手を育てる。
- ・ 再活性化のための拠点づくり、手づくり村づくり。
- ・ 温浴施設（金剛の湯）で金剛山の観光の拠点づくり。
- ・（仮称）ちはやあかさか村あそび ウォークラリー・ツアーなどイベントの企画。
棚田祭 ライトアップなどの工夫や農業祭との連携。
- ・ 観光ガイド（ボランティアはだめ）の育成と組織化。
- ・ やわらかなイベントで日常的に人が訪れる村づくり。
- ・ 道の駅や直売所などの機能連携を図り、村に回遊性を持たせて、来訪者にとって魅力ある村巡りを創出する。
- ・ 空き家バンク制度を創設し、「大学」との連携により学生の下宿として貸し出す。
- ・ 恵まれた自然環境を生かした「自然エネルギー公園」を作り、大阪府内の子どもたちやファミリー層の学習機会を提供し、村に人を集める。
- ・ 里山を活用した特産品づくりや集客。
- ・ 村の特産品を集めたお弁当づくり。（金剛山登山者などへの販売。）

その4

むらびとのネットワークを育てる

～ 村民の力を結集したむらづくり～

村の現状は？ このままではどうなる？

○ 良いところ ▲ 悪いところ

- ▲ 少子高齢化・財政の悪化でこのままでは住めない村になってしまうのではないかという不安がつきまといます。
- ▲ 個々に頑張っている人はいるが、バラバラに活動しているので、村全体の取り組みになっていません。
- ▲ 行政に元気がない、異動等があるので継続的に村づくりに取り組める体制になっていません。
- ▲ 村のHPも更新がなく、来村しても遊べない、面白くない村とされています。

方 針

村づくりの行動の中心は村民自らが担いましょう。そのためには、個々に活動するのではなく、連携を密にして大きな力を発揮できる仕組みづくりに取り組みましょう。

行政は、行政組織の充実を図り、むらづくりを継続的に考える担当班を設置し、村民とともに村づくりに邁進していきましょう。

村づくりの主体は村民であり、行政は村外に向けてのPRや村民の活動について支援と調整機能を十分に発揮し、PPP の考え方で村民と行政が両輪となって進めましょう。

「PPP (Public - Private Partnership)」とは、官と民がパートナーを組んで事業を行うという、新しい官民協力の形態。事業の企画段階から民間事業者が参加するなど、より幅広い範囲を民間に任せる手法。

今回の提言についても、実行するためにはさまざまな課題を一つひとつ乗り越えて前進していかななくてはなりません。そのためには村民パワーを全開にして、それぞれが役割を担いながら、村の明日のために寄与していきましょう。

具体的には？

- ・ 「人とグループ」を集め、「交流」をつくり、「情報」を入手・整理・発信し、人の流れを作って、村おこしに取り組む。
- ・ 村民から動き、「農」「林」「水産」「工芸」の創造的息吹を創り出すことを目的とした村民組織「手づくり村民ネットワーク」を設立する。
- ・ 10年以内に実現する行動提起。
- ・ 情報発信や新規就農者支援、都市居住者の受け入れやイベントを行う受け皿となる組織をつくる。
- ・ 元村民の中高年齢層への「帰ってこい運動」。
- ・ (仮称)「むらづくり班(または課)」の設置。

2. 各グループの提言

第Ⅰグループ

1．村の現状・・・このままでは

- ・ このままでは「夕張になる」の脅しもあり、全村がビクビクして萎縮している。
合併の失敗。
- ・ 全体が古くなり、停滞し、面白くない村と化している。
村のホームページも更新がなく、来村しても遊べない面白くもないといわれている。
- ・ 村内の絆がバラバラになってきており進行している。
村内の連携が出来ていない。
- ・ 村の行政、機関、既存組織がもっとしっかりしないと駄目だ。
役所の人の元気がない、村内ギスギスした関係だ。先手を打った施策を推進すべきだ。
- ・ 本気で、村の収入を増やすことに取り組む必要がある。
村には資源が豊かなのだから活かせる。

2．むらづくりのための資源等の発掘、育成

- ・ 金剛と水と人がいる。
- ・ 歴史は伝統と文化と物資を豊かにたたえている。
- ・ 先ず、村民が立ち上がる。旧村に小吹台を加えた人智が活かせる。村外の村人に帰村を促し、村外との新たなネットワークを広げる。
- ・ 豊かな基盤を活かして、教育を資源にすることが可能で、特徴のあるむらづくりが可能だ。

3．めざす村の姿

- ・ 今までと違うことを新しく作り出していく。そこから連携を新たにした 絆 を築いていき、人づくりむらづくりに取り組む。そして、ゆったりした生活を取り戻す。

人づくり、ものづくりの村
創造と連携の輪を広げる
自然に囲まれて、ゆったり生活できる村

4．具体的に何をするか

(1) 観光を再び活性化させる

- ・ 基本は『金剛山』を活かす：大阪府の宝・信仰の再発見
- 拠点をつくる：今あるものを活かし・新たな拠点も導入していく
棚田（棚田百選）の活用

「棚田祭」として恒例化 ライトアップなどの工夫や農業祭の連携 案山子コンテスト
行事（イベント）で人が集まる・ふるまい・リピーターを拡大する
村民との交流もなければならない：体験型交流

：一過性の課題： 交通渋滞など村民とのトラブルも課題

風呂（金剛の湯）をつくる

金剛山の観光の拠点とする：物産館・山小屋など総合拠点

建設事業費の捻出・地権者の協力取り・民間企業誘致・村の支援

温泉の掘削・間伐チップの活用

- 山林の活用

里山の活用 多様な資源だが、里山ほど放置している

間伐と間伐材の活用 チップ カブトムシ発生

課題は、民有で個人利用の山林、生産林が主で針葉樹林が中心

山に雑木の導入・クヌギやもみじを育成する

シイタケなど多様な資源となる

- 交通から人の流れをつくる

村内の施設の回遊をつくる

資源価値をあげ、入込み客を増やし、連携して→収入の拡大を図る

PR に工夫、新聞の活用、バスの活用

- このことから、まず「人とグループ」を集める

(2) 村民が動く

・村民が一体となって活動し「村民パワー」を全開にする

・このため豊富な資源人材を集め一緒になって動く活動をつくる

- 「手づくり村」づくり を始める

豊富な資源を活用し新たな資源を生み出す、あるものを活かす村民の運動

手づくりをとおして集まりアーティストを呼び込み、千早赤阪「手づくり村」を創設

空き施設・用地・農地の活用

村民があらゆる施設を活用し連携して活力をつくっていく 「場」をつくる

廃校の利用

民家：空民家バンク制度：村が関わり連携（信用供与）

小吹台：「学生」の下宿として貸す→「大学」との連携につなげる

空農地の活用：体験型農業講座として：貸すのに村の協力必要

学校・大学の連携をつくり出す

村民パワーを活かす・村人も交流人も

中高年パワーを呼掛け・集め・活かし合う： 旧村のシガラミ注意 とっかかりが重要

小吹台パワーもある

- 元村民の中高齢者層の「帰ってこい運動」を起こす

若者・大学生パワーを導入し活かす：タイアップ→大学連携につながる

- 『技業展』(7/17～7/18)の実行から、ネットワークを切り開く試みを支援する。

- このことから「交流」をつくる

(3) 本もの のメニュー開発と提供に取り組む

- ・ 先ず、地味から始める
- ・ そして良質な人を呼び
- ・ メニューを工夫して、魅力を高め、増やし、地域の関連を多様につくっていく
- 「ちはやあかさか村あそ歩」を提案し 交流を始める

ウォークラリー、ツアーの企画：大阪ある歩を参考に、

千早赤阪村の歴史・自然・物産と四季の良さを紹介

千早古道の活用 ・マップづくり：保存会の協力

食の楽しみを充実

トレッキングのノウハウを伝える

やわらかなイベントの工夫と連鎖

一期に大量に人が押し寄せる形から連鎖して、常時の楽しみの拠点に

山歩き(トレッキング)のメッカを目指す

情報の発信

あらゆる手段で情報をつくり発信する：村のホームページから変える

- このことから「情報」の入手・整理・発信に

(4) 既存施設の活用再生に取り組む

- 「道の駅」と「直売所」の連携から始める
- 「道の駅」の充実と「農産物直売所」の連携をつくる
- 「自然休養村管理センター」も連携する
- 雇用・村の収入源として大切
- あるものから活かす、つなげる、広げる
- このために、既存の活動や施設や資源を活かし始める
- 観光ワーキンググループの協力をつくる
- 郷土料理を集め、新たな料理もつくる
- 村の弁当をつくる
- 農協加工部の協力も得て
- 村の特産を集める
- チマキ・キビダンゴ・つけもの・みそ
- 草餅・ずんだ餅(くるみ餅)・枝豆・柿葉寿司・凍豆腐
- カブト虫も取れる
- 既存の祭りを活かす
- 農業祭(2年ごと)・農業フェスティバル(毎年)を活かす

村祭りの活用

楠木正成のイベント活用

- このことから「既存の祭や施設」をまきこむ

(5) 村民ネットワークを設立する

・村民事業興しから

- このことから、まず「人とグループ」を集める

- このことから「交流」をつくる

- このことから「情報」の入手・整理・発信に

- このことから「既存の祭や施設」をまきこむ

をとおして、人の流れをつくり、つなぎ、千早赤阪村の村おこしに取り組む

このため村民組織「手づくり村民ネットワーク」を設立する

目的は、村民から動き、「農」「林」「水産」「工芸」の創造的息吹を創り出す

そこから、観光協会などの協力を創っていく

役場が支援しはじめる

高齢化に直面する千早赤阪村の村民交流による

若者へバトンタッチ

人材の育成

新しい産業の創造に立ち向かう

千早赤阪村の人とグループ、それに連携する人とグループなどの多様な頑張りを連携

ネットワーク型の連携の基盤として「学習機会の共有」「情報の共有」のシステムを持つ

情報化時代に対応した、スキルを駆使する

(6) 教育を村の特徴として育て上げる

○教育も大切に特徴となるむらづくりのもと

・小学校を1つにから始め「幼1, 小1, 中1」の幼小中一貫校制度を確立する

・金剛の自然は教育力につながる。もの・こと・ひとを育てること(自然・勤労・社会・
奉仕の体験：金剛山登山、薪割り、筍掘り.....)で、やさしい心と強い身体が育つ

・地域の教育力は「千早赤阪」の唯一の特徴

・「親が変わった」社会の変化の問題も、地域が参加し、多様な絆で「子ども」「先生」も教育する

・「学校が方針をだす」子どもはついてくる、皆が出てきて関わって「やる気を育てる」

第2グループ

1．このままでは

- ・ 少子・高齢化が進行し、村の財政がさらに悪化し、村民が住めない村になる。
- ・ 現在でも、村の基幹産業は農業であるが、「業（生業）」とはいえない状況である。
→ 500 万円 / 年の農産物を生産することは難しい（収入の上がらない農業）
- ・ 千早赤阪村の農業はこのままでは 10 年もたない。
- ・ 大型のスーパーマーケットの進出により、千早赤阪の直売所が影響を受ける可能性がある。

2．むらづくりのための資源等の発掘、育成

- ・ 使われていないものが財産（活用の対象）
 - 遊休農地・耕作放棄地
 - 廃校の校舎・グラウンドなど遊休施設
 - 空き家
- ・ 環境
 - 金剛山
 - 子どもの教育に適した自然環境
- ・ 既存施設や取り組み
 - 自然休養村・JA の店舗
 - いきいきサロン
 - 新規就農支援ネット
 - 技業展
 - 集落の祭り

3．めざす村の姿

- ・ 農業の振興
 - ・ 都市からの移住促進
 - ・ イベントの充実
- 行政だけに頼らない村民の自立的なむらづくりの活動

○ 10 年以内に実現できる行動計画の立案と実行が必要

4．具体的に何をするか（10 年以内に実現する村民の行動提起）

村の PR

- ・ 千早赤阪村に関心をもってもらうことから始める
- ・ 集客のための実践的な PR が必要

- ・千早赤阪村の PR をもっと積極的に行う。
 - 村の公式 HP では不十分
 - 詳細な情報提供（行政的ではなく、関心をもてるような情報と情報提供の方法）
 - PR も民間が担うことでスピードや質が向上する
 - 入山料の徴収
- ・登山道は 8 つある
- ・山の環境保護目的 + 村への収入
- ・雇用創出につながる
 - 料金徴収については多くの課題もあるため、すぐには実現できない。
- 農業の振興
 - ・農業は今後も村の基幹産業
 - ・農業の担い手の育成を行う
 - ・新規就農希望者は多い（問い合わせがかなりある）
 - ・育てる役割は村民の専門家ができる（ex. 新規就農支援ネットワーク）
 - 課題
 - ・窓口が役場がない
 - ・面接や講習の場所が確保できない
 - ・農地に関する制約が多い
 - ・就農者の住宅の確保
- 都市からの移住者の受入
 - ・千早赤阪村に住みたいという人がいる
 - ・リタイア後の人生を過ごす
 - ・不登校やアレルギーなどの悩みを抱える家族
 - ・家庭菜園など土や農とふれあうことを希望している
 - ・趣味の領域でプロの農業者ではないが、農地の保全の担い手となる
 - 課題
 - ・窓口が役場がない
 - ・移住者の住宅の確保
 - ・農地の確保
- イベントの実施
 - ・村民主体のイベントが育っている
 - ・昔からの集落の祭りや花火も魅力がある
 - ・河川の清掃、村里の掃除
 - 教育・子育て
 - ・若い人の定住のためには、教育環境の整備がポイント
 - 千早赤阪村で子どもを育てるとき、どんな教育ができるか

5 . 誰が何をするか - 村民と行政 -

- むらづくりの行動の中心は村民が自ら担う、行政は村民活動の支援と調整機能を十分に発揮する
- むらづくりは PPP (Public - Private Partnership) の考え方で、村民と行政が両輪となって進める
- 村民と行政がお互い見える活動を行い、村の元気を取り戻す

村民

- ・ 情報発信や新規就農支援、都市居住者の受入、イベントなどを村民が主体的に実施する受け皿となる組織をつくる
- ・ 行動する中心は 40 歳 ~ 50 歳の村民
- ・ さまざまな場面で村民の協力と参加が必要
- ・ 活動による収益をあげて村民の自立かつ持続可能な活動に育てる

行政

- ・ 行政は村外に対する窓口と村民活動継続のための支援を行う
- ・ 行政組織の充実
 - 継続的なむらづくり担当の課または班をつくり、職員も継続的に担当する
- ・ 行政は自ら発信すると同時に、村民活動の支援を行う
 - 若い人の就農に関し、当面の人件費支援（研修期間の人件費負担の自治体の例有り）
農地の流動化を促進する条例（新規就農者の土地取得への制約の軽減 - 定期借地なども検討）
- ・ 廃校や遊休施設など村有施設や空き家の村民活用の促進支援

第3グループ

1．村の現状・・・このままでは

- ・自然環境が良い、緑が多い
- ・空気がきれいで、静かで熱帯夜がない 星がきれいにみえる
- ・子どもが素直 学習態度も非常に良い 大阪府下でも優秀な子どもたち
- ・部活動が活発で全国レベルの選手も輩出している。
- ・交通が不便で、高齢者など車を運転しない人にとっての交通手段が少ない
- ・30歳代 40歳代の行事等への参加が少ない。
- ・高齢者が元気で、地域や家族の助け合いにより、福祉への不安感が少ない。
- ・少子高齢化の進行や産業の低迷によって、村に元気がなくなる。

2．むらづくりのための資源等の発掘、育成

- ・自然環境 水 火 風からさまざまなことを学んでいく
- ・歴史資源 中世から近代まで豊富な資源がある 中世の資源（楠公に関するもの）に比べ、近代の遺産（発電所跡）などには、まだ光が当たっていない。
- ・金剛山のきれいで美味しい水の活用
- ・人々の助け合いが今も行われているので、福祉への不安感があまり強くない。
- ・自分の村に誇りを持っている人は他市町より多いはず

3．めざす村の姿

- ・やっぱりみんなが元気な村
- ・大阪の心のふるさと みんなのふるさと
- ・いなかで有り続けたい
- ・自然がいっぱい金剛山（こごせ）の里

4．具体的に何をするか

人を育てる

- ・幼稚園 小学校 中学校の教育をよりいっそう充実し、小中一貫教育を取り入れて、村独自の教育内容に取り組む。
- ・教育環境が充実していることや子育てしやすい村であることを村外にアピールし、子育て世代を村に呼び込み、定住を促進する。
- ・携帯電話やIT環境が急速に整備される中で、人が考えることをやめてしまっていたり、五感や本能が麻痺しているような傾向がある。千早赤阪村ならではの自然環境を生かし、自分で考え、積極的、主体的に行動する人材を育成する。

- ・まず、村民同士の挨拶が大切
 - ・さまざまな行事やイベントを通して、世代間の交流を行い、村の歴史や慣習を伝えることにより、村を語ることでできる人を育てる。
- 課題 ・小中一貫を検討する場合 場所の選択や建替え等の問題
- ・学校教育と家庭教育が連動していく必要がある。

自然の資源を活かした「自然エネルギー公園」で人を集める。

- ・豊富できれいな水、放置された山林 金剛山から吹き降ろす風など、村の自然エネルギーを利用し、大阪府下ではまだ整備されていない自然エネルギー研修公園を整備し、子どもたちが地球の温暖化や自然の未利用エネルギーについて学ぶ場とする。
 - ・千早赤阪村は自然の資源と歴史的資源の宝庫である。これらの資源を生かして、まず人を集める。そして、村に利益をもたらす方策を考えて実行していく。
 - ・研修で作られたエネルギーは近隣の住民等が利用し、エネルギーモデル地区としてPRする。
 - ・学習コースを設定する。コースには上東阪地区の大正期に作られた発電所跡も入れる（先人の素晴らしい知恵を学ぶ）
 - ・学べる大阪府民の憩いの場として集客が期待できる。
- 課題 ・事業推進について、村と村民と大阪府との協議が必要
- ・ガイドの育成 ガイドする内容についての検討が必要

「水」を活かす

- ・金剛山の清水を活用し、付加価値を高めるために建水分（たけみくまり）神社でお祓いをしていただいて、名水「菊水」のブランドとして販売する。
村全体にクリーンなイメージを与える。
 - ・この水を使用したお米「菊水米」やヒヤシアメなど水関連の特産品づくり。
 - ・間伐材で作った樽に入れて販売する。
- 課題 ・熱処理や薬品処理をしない場合濾過設備が高価となる。

村の資源を生かした特産品づくりと販売機能の強化

- ・間伐材や農産物や花卉を生かした特産品をつくる。
 - ・地産地消にもなり、村の収入が増え、生産者のやりがいにもつながる。
 - ・道の駅 直売所 休養村管理センターを連携させ 販売機能を強化する。
- 課題 ・生産者同士 販売機能との協力が必要
- ・施設を整備する場合には土地の確保や建設費用が必要

5 . 誰が何をするか - 村民と行政 -

行政

- ・ 教育内容の検討 小中一貫の取り組みの研究
- ・ 特産品の販売や研修の場の確保
- ・ 観光課の設置 各研修コースやツアーの企画
- ・ 観光資源を村外に P R する
- ・ 村民のアイデアを生み出す場づくり

住民

- ・ 身近で自分のできるところから行動する。
- ・ 村に集まってくれた人々の憩いの場の創出
- ・ 特産品の開発 販売

協働

- ・ 観光ガイド等が行うガイド内容について研究していく。

3. 各委員のアイデア提言

アイデア提言 第1グループ

テ — マ	千早赤阪手づくり村の創設
目 的	・手づくり（ものづくり）を通してアーティストを呼び込み、コミュニケーションの場を構築する
内 容	・廃校や未使用の公共施設及び空家を連動することにより、木工、陶芸、染色等々の手づくりアーティストを呼び込む ・芸大生やプロのアーティストを志す人々を誘致する
関連する村の現状	・手づくりという観点から地場の野菜に注目し、他の地域との温度差を利用し生産品のできる時期をずらせる事により付加価値をつける。現状は個人プレーが目立つように感じる。
取り組む場合の問題点	・廃校や未使用の公共施設を行政がいかにコントロールするか？空家の管理を行政ができるのか？ ・廃校と空家の有効利用
効 果	・貸し手と借り手の間に行政が関わることにより安全、安心を互いにえる事ができる。空家バンクの設立。
住民がすること	・相方 自分でできる事をやる気をもって取り組んでいく事
行政がすること	
住民と行政が協働ですること	
その他	・廃校や未使用の施設を安に取り壊したり、一部の企業に借したりは絶対にしないようにしてほしいものです。

アイデア提言 第1グループ

テ — マ	目玉施設の設置
目 的	・金剛山と言う知名度の高い施設が有るにもかかわらず個人商店がバラバラな動きをしている様に見えるので、拠点施設を設置する。
内 容	・登山客の集約を考え、足湯施設を設置し、公共的な従来から有る農産物直売所を移転し、道の駅とは別な山の駅、里の駅等別施設を新に作る。
関連する村の現状	・今の道の駅にこれからの発展は望めそうに無い。 ・それならば、村が新たな施設を設置しなせばどうか？
取り組む場合の問題点	・新たに建物をと考えるとお金がかかる為そのあたりは考えなければならない。
効 果	・集客したのち、地元にもお金を落としてもらうように毎週イベント等を考える。
住民がすること	・農産物・間伐材等を持ちよってもらう。
行政がすること	・土地建物を用意又は、それに対する補助金を確保してもらう。
住民と行政が協働ですること	・村の施設として、バラバラになっている、既存施設を一本化しまとまりの有る施設運営を行う。
その他	・行政がダメであれば、会社として設置を運営する事も考えなければならないかも・・・・。

アイデア提言 第1グループ

テ — マ	千早赤阪村歩き
目 的	・都市部の人たちに千早赤阪村の歴史、自然、物産を知ってもらい、四季折々良質な人たちに来村してもらうことを目的とする
内 容	・千早赤阪村の歴史資産の紹介と水仙、棚田、彼岸花、山車、建水分神社、金剛山等 ・少人数の有料ツアーを行う
関連する村の現状	・村の歴史遺産の詳細マップが整備されていない。特に村の各地域に有る小さな歴史資産についてのマップづくりが必要
取り組む場合の問題点	・村のマップづくり、案内要員の確保、育成
効 果	・村に対して興味のある良質な人々を呼び込むことができる。単発の観光行事は混雑とゴミを撒らす又、村民の反発も大きくなる
住民がすること	・それぞれの地域の有形無形の掲示協力、ボランティア要因を育成する
行政がすること	・受付窓口と広報、資金のバックアップ
住民と行政が協働ですること	・上記の連携
その他	・村のマップづくり、ウォークラリー

アイデア提言 第1グループ

テ — マ	女子大学生向け下宿づくり
目 的	・小吹台空き家、年寄り夫婦の若返りと健康及び人口増加対策
内 容	空き家を貸し出す 健康な夫婦と共に暮らす。生きがい 村営通学バス
関連する村の現状	村人口減少、高齢化、空き家増加
取り組む場合の問題点	個別対応又は全体対応 契約内容、保障問題 大学への投げかけと連携（広報宣伝活動） 低額サービスでのモチベーション作り
効 果	今の社会現象（低賃金、デフレ）は好機 学生の口コミ期待 高齢村民家庭の癒し 人が増え、繋がりが出来、我が村の永続を期待
住民がすること	下宿者への個別サービスの内容と条件 下宿者への広報宣伝活動 契約内容、保障問題
行政がすること	村の独立自主財政としての戦略化ができるのか？ 大学への投げかけと連携（広報宣伝活動） 契約内容、保障問題 通学サービス（村営ミニバス）
住民と行政が協働ですること	村が主体的にリードし村民のパワーを活用する（人出、時間、調査） パンフレットづくり
その他	H22～H24間の行政経営戦略プランの中身が不明 行政のアイデア（過去～第4次）の公開 過去村行政が財政健全化団体で取り上げたアイテム、実行結果の問題点がわからない

アイデア提言 第1グループ

テ — マ	観光収入の増大
目 的	下山口に村営銭湯を作る 隣接させて村の特産物店の開設（野菜、米、猪肉、キジetc） 山小屋設立（自炊） 犬の宿泊、運動場（遊休土地活用）
内 容	既存の駐車場、各種売店等を1箇所にとめる。 村営のミニバス運行（下山口間、銭湯箇所と河内長野駅間） 入山料取立て
関連する村の現状	村の事業予算の裏付け 金剛山の所有権の実態と登山収入、駐車場料金？ （府、富田林市、千早赤阪村） 登山客の実態調査不明（数、使用バス路線、買い物等）
取り組む場合の問題点	村の事業予算規模 既得権者との話し合い 過去の経緯（問題点、反省）
効 果	金剛山の知名度、観光資源の見直し 関連特産物の宣伝
住民がすること	手作り製品の持込み 各種イベント（登山客相手）の企画及び参加
行政がすること	村の独立自主財政としての戦略化ができるのか？
住民と行政が協働ですること	村職員の村民活動の積極的な牽引役（この指とまれ） 広報宣伝活動 事業者の勧誘 楠弁当販売、自然歩こう会等の再組み立て
その他	H22～H24間の行政経営戦略プランの中身が不明 行政のアイデア（過去～第4次）の公開 過去村行政が財政健全化団体で取り上げたアイテム、実行結果の問題点がわからない

アイデア提言 第1グループ

テ — マ	観光
目 的	・ 棚田のライトアップの集客を利用して毎年恒例のイベントにする
内 容	・ 棚田のライトアップに便乗して農業祭も大規模に展開。「棚田祭」として恒例行事として定着させる
関連する村の現状	・ 農業祭も隔年になり、小規模になりつつある。「かかしコンテスト」も自然消滅のような感じ
取り組む場合の問題点	・ 継続する事が大事。尻すぼみにならないように！
効 果	・ 村の活性化、元気が出る ・ 村外からの集客
住民がすること	・ ボランティアとして協力
行政がすること	・ 広報、祭りのプランニング
住民と行政が協働ですること	・ ボランティアとして祭りを盛り上げる
その他	

アイデア提言 第1グループ

テ — マ	営業
目 的	・村外、村内からの集客を増やして村の収入を少しでも増やす
内 容	・道の駅の充実 村内の特産物（農、林）→現存する直売所との連携 手作りの食品→パン、お弁当、タケノコビン詰めなど 喫茶、レストラン（おばんざい、田舎カフェ）→名物メニューを作れば口コミで人は集まってくる
関連する村の現状	・道の駅、農産物直売所がバラバラなので一体化できないのか ・水仙や桜の頃の集客をうまく利用できていない
取り組む場合の問題点	・場所の確保、自休村センターの活用
効 果	・村内・外からの集客 ・村民の雇用確保
住民がすること	・村の特産物、手作りの食品の提供
行政がすること	・農産物直売所や森林組合との話し合い ・雇用 近隣自治体の施設の視察
住民と行政が協働ですること	・農産物を安く提供
その他	

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	キャラクター マサシゲくんの活用
目 的	・キャラクター マサシゲくんをPRし、観光に取り組む
内 容	・マサシゲくんをマスコミ等により有名にする
関連する村の現状	・PR不足
取り組む場合の問題点	・マサシゲくんを生かした商品作り ・特許・商標の登録をしているのか。
効 果	・ヒットすれば著作権などが収入として見込むことができる。
住民がすること	・宣伝を手助けする。
行政がすること	・宣伝
住民と行政が協働ですること	
その他	

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	金剛登山への有料化
目 的	・ 村の収益アップ
内 容	・ 登山者に観光税をいただき山林の保全管理費に当てる。
関連する村の現状	・ 金剛山への登山客は多いが費用ばかりがかかる。
取り組む場合の問題点	・ 登山者の管理をどのようにするか？ ・ 金剛山利用権は村にあるのか？ ・ 毎日登山する人はどうするか？
効 果	・ 村の収益
住民がすること	・ 村の周囲を清掃し、きれいなむらづくり
行政がすること	・ 管理人をどのようにするか
住民と行政が協働ですること	・ 千早赤阪村を四季を通してPRする。
その他	

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	定年退職者の帰農
目 的	・定年退職者を村へ呼び戻す。 ・人口の増加を図る。
内 容	・後継者を呼び戻し、人口の増加を図る。
関連する村の現状	・休耕田の活用、村の人口増加
取り組む場合の問題点	・農業指導と農産物の価格安定 ・収入の確保
効 果	・村の人口増加、村の活性化
住民がすること	・帰農者への野菜作りの支援
行政がすること	・帰農者への支援、税金の減税
住民と行政が協働ですること	〃
その他	

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	農業就業者の受け入れ
目 的	・ 村内の休耕田、空屋を利用し、村外から農業就業者を受け入れ、村の若返りを図る。
内 容	・ 村と農協が中心となり村外から農業就業者を募集する。
関連する村の現状	・ 空屋、休耕田を把握し、対応できるように整備する。
取り組む場合の問題点	・ 土地の使用賃借の問題 ・ 農業委員会の問題 ・ 農産物の販売ルート
効 果	・ 若い農業就業者により、村の人口を増加 ・ 活性化を図る
住民がすること	・ 村外からの移住者に対して心よく受け入れる
行政がすること	・ 村内の空屋、休耕地を調べ、行政が仲に入り農業就業者に斡旋する。
住民と行政が協働ですること	・ 農業就業者の家族の受け入れ、各地区のイベント行事に参加してもらう。
その他	

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	小学生の道徳
目 的	・小さいときからこの千早赤阪村に残って生活することを考える。 ・人口ピラミッド
内 容	・小学校低学年から道徳、儒教を学ぶ ・土曜日を使う ・年寄りを大切にする
関連する村の現状	・河川のそうじ ・公共公園トイレそうじ
取り組む場合の問題点	・学校にお願い
効 果	・皆がいる ・子どもの声が聞こえる楽しい村
住民がすること	・参加
行政がすること	・参加
住民と行政が協働ですること	
その他	

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	名所を造る
目 的	・人を呼び込む ・村の活性
内 容	・自然あふれる千早赤阪村 P R ・四季の良さ ポスター ・長期計画
関連する村の現状	
取り組む場合の問題点	
効 果	・こんなに素晴らしい村から離れたくない ・もっと住んでいたい
住民がすること	
行政がすること	
住民と行政が協働ですること	
その他	

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	金剛山入山料をもらう
目 的	・村の資金
内 容	・自然保護の名目で1人200円
関連する村の 現状	
取り組む場合 の問題点	
効 果	・若者の雇用
住民がすること	
行政がすること	
住民と行政が 協働ですること	
その他	

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	休耕田の活用
目 的	・老人が増え、田端が余る ・若者 働く者を集める
内 容	・農業を企業とし月給制で雇う ・趣味でつかってもらう
関連する村の現状	・若者が集まる努力をしているのか
取り組む場合の問題点	・儲かるまで、もちこたえられるか
効 果	・働く若者をふやす
住民がすること	
行政がすること	・空き家、あっせん
住民と行政が協働ですること	
その他	

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	アイデアを形に！！
目 的	・むらづくり村民会議でのアイデアを実現可能から実現へ
内 容	・実行部隊の創設（NPO法人格） ・如何なる困難が有っても解決策を探し実行へ導くシンクタンクの組織を創設する
関連する村の現状	・単発的、その場限りの、集まりに終始
取り組む場合の問題点	・ボランティア的発想では偏った考え方の方たちにだけのグループになってしまう
効 果	・月2回、3年程度の長いスパンでの組織が有れば必ず何らかの形が残る
住民がすること	・この様な組織が出来たら、温かく見守り陰ながら応援して頂く
行政がすること	・先頭に立って組織を運営し黒子にならない
住民と行政が協働ですること	・住民は参画者を出し行政は直ぐにでも組織作りに着手する
その他	・村民からの参画者には手当を支給し、権限と責任を負わせる ボランティアでは無責任な集まりになってしまいます

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	観光地作り
目 的	・府内にない観光地作り ・P . P . P . モデル事業
内 容	・森林組合が運営母体の「山菜狩り園」 ・春は“ わらび ” “ ぜんまい ” 秋は “ 栗 ” “ あけび ” 等
関連する村の現状	・お金を生む観光地が少ない刺激的な観光地作りの新しいアイデアが少ない
取り組む場合の問題点	・運営母体の設立、村営がりそうですが民間委託も検討、初期投資資金
効 果	・大人一人1,500円 × 年間10,000人 = 1,500万円を目標 ・相乗効果で他の施設のアイデアが出る
住民がすること	・初期投資資金の株式化 ・株式の購入
行政がすること	・国有地、村有地の仲から利用可能な用地の選定 ・用地利用を阻害する法律の改正
住民と行政が協働ですること	・P . P . P . を理解して頂き多くの方の参加をお願いする
その他	・村にお金が沢山入るアイデアを常にアンテナを張って見つけ出し実行する ・経営者の発送を行政職員皆さんに持ってもらう

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	財政改革
目 的	・ 村の財政改善に寄与 ・ 硬直化した議会の刷新
内 容	・ 議会定数 7 名への削減 ・ 議員報酬の日当制（議会開催日換算）日額28,000円
関連する村の現状	・ 名誉職化した機能していない議会の現状の改善 ・ 区長会提出の議会解散リコールに議会が応じ無い
取り組む場合の問題点	・ 自主解散が望めない ・ 3 年先までは現状のまま
効 果	・ 新しい考え方で行財政改革 ・ 志の有る議会による新しいむらづくり
住民がすること	・ 議会の解散要求、リコール、住民投票
行政がすること	・ 円滑に選挙が行えるように住民に協力
住民と行政が協働ですること	・ 新しい村に生まれ変わるとの意識の共有
その他	・ 大阪府で唯一の村が議員報酬を日当制にすることによっての大阪府庁に行財政改革の村の取り組みを評価していただける

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	情報発信
目 的	・ 廃校を利用して話題作りと廃校の維持管理費用の捻出
内 容	・ 千早小学校を利用して「市民大学」を村営で運用する教室を賃借して維持管理費を賄う
関連する村の現状	・ 千早小学校の跡地利用計画が決して無い？
取り組む場合の問題点	・ 運営する組織作りと最低限の改修費用
効 果	・ 情報発信基地として多くの方に来て頂き利用してもらう有意義な行動を行いたい方に安価出場所の提供ができる
住民がすること	・ 話題作りと運営に積極的に参加
行政がすること	・ 開設期（住民の運営組織が固まるまで）役場が運営母体を担う
住民と行政が協働ですること	・ 目標意識を共有して村に収益を生む
その他	・ 府内唯一の村での「市民大学」は大きな話題となるでしょう。NPO法人の立ち上げや民間各種組織への場の提供は喜ばれる

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	むらづくり住民支援相談センターを設ける
目 的	・住民のとりくみについて、相談や支援するセンターとして、専用窓口をつくる。
内 容	・「むらづくり」の一環となる住民のとりくみについて支援(相談・村公共施設・場所・用具など)する
関連する村の現状	・村所有の公共施設・場所等で一時的・恒常的な使用を必要とする場合の場所確保。 ・休養村センター、千早小、キャンプ場、分校跡、その他
取り組む場合の問題点	
効 果	・村民の元気強さ ・人口増加(村外移動者減少と入ってくる者増加)
住民がすること	
行政がすること	・むらづくり住民支援相談センター窓口設置と場所確保、予算化(若干の改修など、また貸し出し用テントなどの予算化)
住民と行政が協働ですること	・手続きの簡略化。
その他	

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	行政機構内にむらづくり課（班）を常設する
目 的	・ 今後のむらづくりを計画的に推行し、実現にむすびつける。そのためには、行政の平常業務に追われる部所とは別にした、“新しいむらづくり”の観点で活動できる部門を作る。
内 容	・ むらづくり予算を計画的に形状・確保する。そして、専門の部所として、課もしくは班（課がのぞましい）を行政機構内に設置する 予算 住民支援（要望・相談対応） 研究・実践（実行と計画のコントロール） 渉外（各課との交渉調整、外部機関や組織団体との交渉） 情報・宣伝（全国情報キャッチと村外への宣伝活動） 検証・修正などが全体の仕事内容である
関連する村の現状	・ 現状の各課の業務では、日常業務に追われる実態であって、新しいむらづくり計画にもとづいたとりくみに足を出しにくい。また予算上の保障はなく、計画不実行に陥る危険が大いにある。さらに、むらづくり計画案の推行には、各課の業務との関連もあって、各課を関連させた上で独自の課題を推行する側面がある。
取り組む場合の問題点	・ 予算課と意欲ある人の人選。 ・ 村所有の公共施設の使用について（建物・土地）
効 果	・ 計画実現の大元が確立することによって、10年計画の推行が保障される。むらづくりの実現的な礎となれる。
住民がすること	・ 課（班）から宣伝されるとりくみや募集に参加したり応募したりする。また事業やとりくみたい事柄について相談する。
行政がすること	・ むらづくり計画のための予算化（初年度から第10年度までの計画的な予算措置。また課（班）への人員配置。） ・ 行政職員全員への説明と理解への徹底。課（班）の設置場所（自然休養村センター内にあれば良いのではないかな）
住民と行政が協働ですること	・ 半ボランティア協力者の募集、応募
その他	・ 広報の仲でむらづくり課（班）の存在を宣伝し、その役割と村民協力づくりの窓口であることを宣伝、徹底すること。

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	「おおさかのふるさと生涯村；千早赤阪」の基本構想案
目 的	・ 昨今の国や府の不安定な情勢がさらに続く場合であっても、住民の生活を守り続けることを村政の第一に位置づけ、村民のＱＯＬ（生活の質）向上をめざした良質のむらづくりを行う。常に全府民的立場に立ち、小さい村だからこそ村民の声が反映しやすい側面をメリットとして、全ての年齢層がこの村で安心して生活しつづけられるための生活環境づくりを重視した取り組みをおこなう。そのことを基本的足場にして人口維持及び増加につながる諸々の策をほどこす。また、基幹産業となるべき農業・林業の分野での村民の元気策を軸にして、村の持つ貴重な資源を生かしながら村民運動の各事業を有効に関連集約化させ、地産地消の合理的省エネ地域産業への活動を活発にする事業策に着手していく。この１０年は向こう２０年～３０年先を見通した中の第１ステップとして、その研究と計画に基づいてその対策事業を実施していくものとする。一方、この間の財政経過及び財政事情を正しく分析し、それら１つひとつの原因やその関連要因をあきらかにし、これまでの行財政対策とその効果を素直に見直し、今後の行財政的手だてを組み立てていくものとする。そのうえで、村のゆるやかな財政好転策を計っていく。
内 容	・ 以下の４つを基本構想の柱とする。 安心して生活ができ、働くことができる“活動村”をつくる。 １）村民の収入源を確保しやすくする。 １ 農作物などの直売所を整備し地域的観点から分散増設する。（現行の定期的朝市の改善・村特産物直売所・軽トラ市場などのあらたな計画） ２ 行政分野及び村内民間事業所での村民雇用を促進する。 （条例的対策の検討・シルバー人材活用などでの量的増加と多彩化など） ３ 耕作者の不足による放棄的休耕地の活用にとりくむ。その際、個人農業だけでなく小規模な共同農業の実現化をも同時にめざす。また人的不足による放棄的山林の対策のために集団的な監理作業化を促進させる。そのため、現行の農林業事業者との協力により雇用促進をはかる。（行政は土地提供者・就労希望者のキャッチと紹介及び組織化、農協の役割：就労者支援教育・講習の設定や場所の確保・作業機械の世話などが必要） ２）村民の交通手段の確保のために、村と南海バス・金剛バスとの連携協力により、現在の運行状況を今日の時代の流れに即して改善する。 １ 今日では、村の一面はベッドタウンとしての存在にもなっていることから、通勤者支援策として始発バスおよび終バスを、電車の運行時刻により対応したものに改善されるように交渉する。 ２ 公共交通バス運行の少ない時間帯の交通手段確保の問題や、路線から外れた地域の村民の交通手段確保のために、スクールバスなどの利用も含め、その対策をいそいで検討し、村内循環バスの復活にとりくむ。（方法・運用・経費・料金などの面で再検討が必要） 自然環境を生かした“教育・文化村”に発展させる。 １）公営の保育機関（保育園・幼稚園）を増設する。同時に、高齢者のための生涯健康支援文化活動の場とそれを同居させたものにする。 ２）各小学校で、学童保育を保証し、施設や指導員数の充実などで行政的立場からの支援を行っていく。 ３）府民的立場に立ち、村の資源である自然環境を優位性の高い教育条件として特に生かし、全府民を対象にした不登校児道・生徒らのための支援学級を設置する（廃校・空き教室の活用や転住家族らへの空き家利用への紹介などを行政として支援が必要）

内 容	4) 自主的文化活動を活発にするため、村内での各々の活動や専門家をネットワーク化するための組織づくりを物理的条件的側面で支援をしていく。また、村内全ての文化活動を合同で作品展示・発表・公開講習などが行えるように企画したり、郷土資料館などとの合同展示など他の活動との連携で、より大きく集客効果が得られるようにするため指導と援助にとりくむ。 いつまでも住み続けられる“生涯村”をつくる。 1) 定年退職層の第二の人生の場を提供できるむらづくりにとりくむ。そのため、行政は空き家・耕作放棄地の提供者と希望者を募り紹介を行う。 2) 軽農業や工芸などの取り組み支援講習センターを公共施設や廃校跡を利用して設置していく。(農協などとの連携が必要) 3) 村内での食料品や生活用品が調達できるようにするために、販売店の誘致策とそれへの支援策をこつじる。(千早・森屋・小吹台などの地域別対策) 環境保護と地産地消を念頭におき、村の地域資源を活用した新たな産業を形成し、雇用や地域経済・文化の側面での活性化にとりくむ。また、各事業を相互に関連させた循環型のゾーンを実現し、のち充実拡大していく。 1) 千早ゾーン 金剛登山客 道の駅化で足湯場(将来は温泉場)・そば屋・特産朝市・特産工芸品市=そば作り農業(空き家活用)・特産千早赤阪米 誰でも登れる山への改善整備 2) 森屋ゾーン ふるさと観光客 棚田風景・さとやま風景・奉建塔の桜とすいせん 農産物市場 レンタルサイクルの導入(無料又は低料金) 史跡めぐりコースの整備(楠公史跡・水分神社・上赤坂城址の整備・各々の駐車場整備) 3) 桐山・二河原辺ゾーン 竹材関連産業開発地域(製品化・材料化・燃料化) 4) 東阪・中津原ゾーン 木材関連産業開発地域(製品化・材料化・燃料化・堆肥化・工芸品化) 村内各分野との連携 5) 全村 農産物直売所及び駐車場の増設 給食センター等との連携 残飯の堆肥化 以上
関連する村の現状	「第3次千早赤阪村総合計画」との総括(案)及び 「千早赤阪村行政経営戦略プラン」(元気プラン改定版)
取り組む場合の問題点	総合計画は方向性を示すものだけでなく、長期のむらづくりの方向へ舵をとる組織的保証とそのための予算的裏づけがなくてはならない。これまでの行政では、全体として行財政改革と称して財政支出の削減を行っているため各課では新たなとりくみへの計画やそのための活動への予算化ができないし保証されない。従って、総合計画の実施案では、舵とりのためには行政組織上で予算化ができるむらづくり専門の組織的部門が確保されなければならない。
効 果	1. 「村の魅力」を情報発信することにより、計画期後半では、村への転住者の増加で人口の減少が止まりのち増加現象に至る。 2. 村民活動では、旧村地域の農業林業の活発化と新住民の流入で全体として活発で元気なむらづくりが形成される。 3. 上記の1・2により、村財政もゆるやかに上向き、村の自律が実現される。
住民がすること	1. 耕作放棄地や空家を期限付きで村へ貸し出してむらづくりに協力する。

行政がすること	1．総合計画を実現させるために、行政内部で専門部所（課又は班）をつくり、実現のために事業予算として予算化する。（毎年の村財政の数パーセント程度の予算化が必要） 2．「村の魅力」情報発信及びキャッチのセンターを設ける。 3．村民活動活性化のための「村民活動相談センター」を設置する。
住民と行政が協働すること	総合計画を実現させていく上では、その時々的情勢変化によって村民の願いや要望が変化していくので、恒常的な「行政と村民による総合計画むらづくり委員会」なる組織が必要である。そこで住民と行政が協働することが基本的に大切である。
その他	

アイデア提言 第2グループ

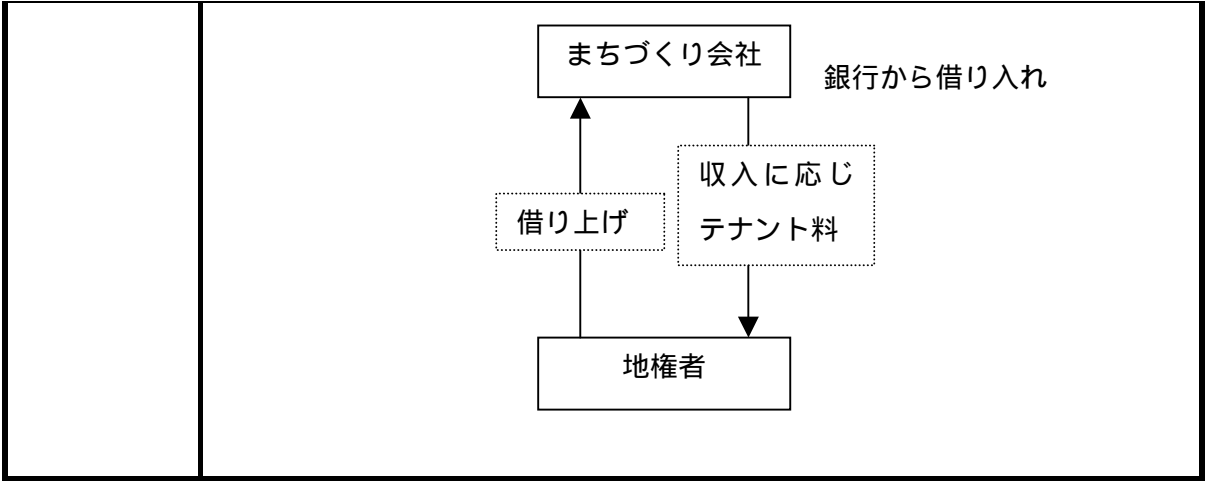
テ — マ	楽しめるむらづくり
目 的	・ 空き家、廃校利用のさまざまなアイデアの取り込み
内 容	・ 金剛山以外の観光客の開拓をする ・ 定期借地権を利用し、地権者と、借り手側との間を仲介し、空き家を有効活用していく。他にある細かいアイデアとつなぎあわせてゆく
関連する村の現状	・ 今は観光客が登山客に集中しており、村を素通りしてゆくように感じられる
取り組む場合の問題点	・ 村の中を観光客が来る事での、治安やゴミなどの問題 ・ 村民が環境の変化を受け入れるか
効 果	・ 新しい村の収入源につながり、地域活性化につながる
住民がすること	・ 問題点を受け入れてもらい、協力してもらう
行政がすること	・ 行政が仲介することで、企画や地権者への安心感を説明してもらう
住民と行政が協働ですること	・ 新しい村の取り組みに互いに協力し合う
その他	

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	千早住民の電力無料化及び定額料金化
目 的	・ 村に住む事へのメリットを向上させる
内 容	・ 企業の協力や補助金の助けをかり、水力、風力、ソーラーパネルを設置する ・ 前回聞いた、村にある、使われてない水力発電を利用する。余剰電力は売る ・ 住んでもらうから住みたい村へのブランド化をはかり、定住制限にして住む事への順番待ちになるようなかたちにする
関連するの村の現状	・ 水道管の入れ替えや、他の事業にも予算がまわらない財政難である
取り組む場合の問題点	・ 風力発電機やソーラーパネル設置による景観への影響 ・ 資金の確保の問題 ・ 設備や電力会社との問題
効 果	・ 新しい移住者の増加、新事業の負担軽減 ・ 話題性を含み、知名度のアップにつながる
住民がすること	・ 初期投資が必要な事への同意
行政がすること	・ 企画に対する調査
住民と行政が協働ですること	
その他	・ 近畿の一般家庭、年間2500～3000kw

アイデア提言 第2グループ

テ — マ	むらづくり会社の設立
目 的	・ 行政に頼らず、村は自分たちで守ると言う、住民の自立意識が目的 ・ 村民自身が自分たちの暮らしやすい村にする
内 容	・ 本当に千早赤阪村のことを考える住民による政治的なパフォーマンスとは無関係の無派閥な団体をつくる。そのことにより、柔軟な意見や企画は議会等を通さない事で即効性を持ち、実現へのスピードアップ化を計れる。そして、資金運用にも透明性があり、可能性の高い事への出資が出来る。
関連する村の現状	・ 国に頼る役所、役所に頼る村民という悪循環が感じられる。 ・ 今の村の状況となって、V字回復できるなら、なぜ今までできなかったのか疑問である
取り組む場合の問題点	・ 村民がリスクを背負ってまでこの村にとどまるメリットを感じられるか？
効 果	・ 子供から年配までの幅広い視点での意見を聞け、反映させる事ができる。せめて、この村からでも変えてゆけるという可能性が持てる
住民がすること	・ 何もせず沈んでゆく事を選ぶか、リスクを伴うが村を守る為に何をすべきか考えてもらう ・ 個人の利益も大切だが、村全体の利益になることに協力し合う
行政がすること	・ 人が訪れたくなる村の景観を守る為、不法投棄根絶などの新たな条例の設立を考える ・ 赤字の要因となっているハコもの施設の見直しや転用方法を考える
住民と行政が協働ですること	・ 村の発展や利益になる事に互いに連携し合う
その他	・ 大阪が変わってゆこうとするこの時期の波に乗り、短期、中期、長期計画を実行してゆきたい ・ 夕張市の行政がおこなったすべての失敗はこの国そのものであり、この村も同じ運命を辿ろうとしている。もう村民自身で自分たちの村を守るしかない段階に来ていると考えます (丸亀商店街) 自分たちの住みやすいコンパクトなまち作り ・ 地権者の不安をなくす為定期借地権を使用



アイデア提言 第3グループ

テ — マ	水を生かす
目 的	・資金の確保
内 容	・「菊水」の名称で樽づめ
関連する村の現状	・林業の活性化 ・間伐材から樽づくり
取り組む場合の問題点	・人材確保
効 果	・財政の確保
住民がすること	・P R - 口コミ
行政がすること	・P R - インターネット
住民と行政が協働ですること	・林業の維持と発展
その他	

アイデア提言 第3グループ

テ — マ	歴史探訪と健康づくり
目 的	・目と心と体をきたえる
内 容	・自転車で探訪 ・徒歩での探訪 課題別 { ・ 3 km ・ 5 km ・ 10 km
関連する村の現状	・健康づくり 村民全員参加 ・健康診断無料
取り組む場合の問題点	・探訪道の設置 例：上赤坂城—不本見神社
効 果	・大楠公の見直し—保存会の充実 ・長寿生活医者いらず
住民がすること	・村民一斉参加
行政がすること	・コースの整備 ・自転車の確保
住民と行政が協働ですること	・奉仕と支援
その他	

アイデア提言 第3グループ

テ — マ	人を育てる
目 的	・ 思考停止と本能麻痺からの脱却
内 容	学校教育の見直し 自由と責任—人としての主体 公益のために動くリーダーの育成
関連する村の現状	・ 澱む（よどむ）
取り組む場合の問題点	・ 学校教育の一貫性と家庭教育
効 果	・ 積極性と主体性
住民がすること	・ 挨拶、責任、感覚を研ぐ
行政がすること	・ 挨拶、笑顔、見守る
住民と行政が協働ですること	・ 挨拶、笑顔、主体性
その他	

アイデア提言 第3グループ

テ — マ	村の資源を生かす
目 的	・村の資源を利用して、商品開発・販売を行う
内 容	・間伐材の有効利用・野菜や果物、花の販売 ・金剛登山者の入山料徴収
関連する村の現状	・野菜やみかん、花、炭焼きなどそれぞれに素晴らしい特産物があるが、売る場所がバラバラなので販売効率が悪い ・金剛登山客に関しては、駐車場代金のみ
取り組む場合の問題点	・それぞれの商品に関してオープンに出来ない部分もあるのでは？ ・販売場所を作るのに、人件費等も含めて費用がかかる ・入山料に関しては、関所の場所と人件費の問題
効 果	・地産地消にもなるし、村に収入が入る。生産者もやりがい生まれて元気になる
住民がすること	・生産者の協力が必要 ・入山料に関しては住民の理解が必要
行政がすること	・販売場所の確保（道の駅の建て替えと移転が望ましい） ・入山料に関しては、徴収して行政的に問題がないのか？
住民と行政が協働ですること	
その他	・現在の道の駅の場所、規模ともに問題があるという意見は、河南町の道の駅の成功から見ても間違いはないと思いますので、是非移動と立て替えを検討してもらいたい

アイデア提言 第3グループ

テ — マ	水を利用する
目 的	・金剛山の綺麗な水を有効利用する
内 容	・水の販売、その他
関連する村の現状	・おいしい水を求めてポリタンク等を使って取りに来る人がいる ・豆腐作り マス釣り ・水の量は毎年減っている
取り組む場合の問題点	・飲料水として販売するには、熱処理や薬品処理をしないのなら高価な濾過器が必要である ・一般に使用する水道の水量が減っている
効 果	・名水百選のようになれば、観光客を呼べる ・クリーンなイメージを与える
住民がすること	
行政がすること	
住民と行政が協働ですること	
その他	・水の成分の中に、他にないミネラル等が含まんでいれば差別化できるが、金剛山の名前だけでは難しいのでは。 ・ヒヤシアメ等を開発して、登山客や観光客に立ち寄ってもらえる所で販売すれば、付加価値をつけることができるのでは

アイデア提言 第3グループ

テ — マ	人を育てる
目 的	・ 幼・小・中の教育を充実させて、村外にアピールし、村に移住して、子育てをしたくなるような教育環境を作る
内 容	・ 小・中一貫教育を取り入れて、一貫した指導内容や指導目標を持って協同目標を統一させる ・ 一貫校にするのが難しいのであれば、小学校だけでも一つにすれば中学校に上がる時の不安や弊害はなくなるのでは
関連する村の現状	・ 現在は、幼稚園1・小学校2・中学校1の4校園
取り組む場合の問題点	・ 小学校は、少人数ながら場所が離れているので、一つにする場合どちらを選択するのが難しい ・ 一貫校の場合、校舎の建て替え問題もあるので現時点では難しいと思われる
効 果	・ 健やかな子ども達が元気よく学校に通うということは、それだけで村の誇りにもなるし、活性化にもなる
住民がすること	・ 地域が協力して子育てを行う環境にする ・ 親も責任を持って子ども達にかかわっていく
行政がすること	・ 健全教育特区のようなものを制定して村主導で、教育環境を作り上げていく
住民と行政が協働ですること	
その他	

アイデア提言 第3グループ

テ — マ	自然エネルギーの活用
目 的	・ 水、太陽、風を使ったエネルギー設備を作って、子ども達の勉強の場として紹介する
内 容	・ 水力発電、太陽光発電、風力発電
関連する村の現状	・ 運動に取り組んでいる方がおられる
取り組む場合の問題点	・ 実用的に作るのか ・ 子どもの教育の施設として作るのか
効 果	・ 子どもの情操教育にもなる ・ クリーンなイメージをつくることできる
住民がすること	
行政がすること	
住民と行政が協働ですること	
その他	

アイデア提言 第3グループ

テ — マ	人を育てる
目 的	・学校教育を充実させることにより、よりよい人材の育成をすると共に子育て、教育の村であることをアピールし、外部からも受け入れ、人を増やす。子どもが住みやすく定着するむらづくりを目指す
内 容	・小中一貫校をつくり教育を一本化する。 ・スポーツ大会や行事まつりごとを通して地域・世代を超えての交流の場をつくる。
関連する村の現状	・村内にある二つの小学校の方針など先生により変わることがある。 ・協力体制が弱い
取り組む場合の問題点	・それぞれの地域の考え方がある
効 果	・村の子ども達が皆と同じ教育を受けることができる
住民がすること	・挨拶、感覚を磨く
行政がすること	・教育委員会の指導の一本化。見守り ・職員により村民の意見アイデアをひろい活かしていく
住民と行政が協働ですること	
その他	

アイデア提言 第3グループ

テ — マ	村の資源を活す お水
目 的	・村の資源の一つである清水を活用し村の活性化をはかる
内 容	・金剛山麓の湧水を間伐材で作った樽に入れ、建水分（たけみくまり）神社にてお払いして頂き、名水“菊水”のブランドをネット販売する
関連する村の現状	
取り組む場合の問題点	
効 果	
住民がすること	
行政がすること	
住民と行政が協働ですること	
その他	

アイデア提言 第3グループ

テ — マ	自然エネルギー研修公園
目 的	・千早赤阪村には、千早川に豊富なきれいな水・山には使われずに放置された山林がある。また、金剛山から吹き下ろす風と自然エネルギーは無尽蔵に存在する。その自然エネルギーを利用した大阪府にはまだない「自然エネルギー研修公園」をつくり、大阪府民や小中学校の子供たちが地球温暖化について、また、自然エネルギーの活用について学んでいくための研修公園に供する。
内 容	・登山道にある堰堤の上は風が良く通り抜けているので、そこに風力発電機を設置し（現在大阪府土木事務所と交渉中）その下にある公園に薪炭ガス発電機を設置する。水力発電機は、堰堤から流れ落ちる水を利用したり多聞地区の集落を流れる千早川流域に1キロワットクラスの発電機を5～6台設置してデモンストレーションだけでなくその近辺の住民の電力に使用し、将来的にはすべての住民のエネルギーを賄うモデル地区とする。学習コースの中には上東阪地区の大正期に作られた発電所跡もいれる。
関連する村の現状	・私たちの活動（地球温暖化防止活動推進員）に対しての理解は、村長や住民課の方々に頂いて、協力体制は出来ている。
取り組む場合の問題点	・堰堤上の風力発電機の設置については、村長の協力を頂いて現在大阪府と折衝中であるが、公園や千早川に水力発電機を設置する交渉がまだ出来ていない。また、100万円余りは予算を要するが、その算段もこれからである。
効 果	・自然エネルギー公園は、大阪府にはまだない。千早赤阪村は自然の宝庫と同人歴史の宝庫でもある。エネルギー公園と自然、史跡を観光資源として集客力はかなり得られるものと推定される。
住民がすること	・集まった人々に憩いの場を提供したり、間伐材を利用した木工製品・椎茸・水・農産物を製造販売する。
行政がすること	・まつまさや千早地区公民館を利用するが将来的には、センターを作り上記のものを販売したり研修会を行う。その場を行政が用意する。また、観光課を設置し自然エネルギー公園や史跡めぐりバスツアーを計画し、事業展開する。
住民と行政が協働ですること	・自然エネルギー公園での研修指導や史跡ガイドボランティアについて、情報内容やガイド内容について共に研究していく。
その他	・まず人が集うことを考える。そして、集まった人々が村に利益をもたらしてくれることを考える。人々が集うための資源の開発、村に利益をもたらすための資源開発を、今後十分吟味していく必要がある。

アイデア提言 第3グループ

テ — マ	道の駅の改善
目 的	・現在、道の駅がくすのきホールの前にあり、農産物直売所が中学校前にある。道の駅は直売する農産物の種類が少ないのに、北海道産のタマネギがあったり青山県産のにんじんに置いてあったりする。農産物直売所は比較的种类が豊富であるが、必ずしも従来の多いところとは言えない。その中途半端な2ヵ所の直売所を一つにまとめて、立地条件を整える。
内 容	・309号線と府道富田林五条線が交わった三角地帯に村の道の駅を作りの農産物・花、間伐材を利用した水桶等物産、銘水等地元の物産に限定して常設で販売する。
関連する村の現状	・現在、道の駅はくすのきホール前にあり、農産物直売所が中学校前にあるが、どちらも中途半端である。
取り組む場合の問題点	・土地の確保と建築費用がいる。
効 果	・雇用効果が見込めるし、販売規模によってはかなりの村への収益が見込める。
住民がすること	・農産物の搬入販売と木工製品の製作
行政がすること	・土地や建築費用の確保
住民と行政が協働ですること	・多市町村への宣伝PP活動。
その他	・まず人が集うことを考える。そして、集まった人々が村に利益をもたらしてくれることを考える。人々が集う為の資源の開発、また、村に利益をもたらすための資源の開発を、今後十分吟味していく必要がある。

資料編

“ちはやあかさか”まちづくり村民会議設置要領

(設置)

第1条 第4次千早赤阪村総合計画の策定にあたり、村民から今後の千早赤阪村のまちづくりに係る提言を受けるため、“ちはやあかさか”まちづくり村民会議（以下「村民会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 村民会議は、今後の千早赤阪村のまちづくりの基本的方向について、村民の立場から意見交換、討議を行い、その結果を報告書としてまとめ、村長に提言する。

(組織)

第3条 村民会議は、委員30人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者で構成する。

- (1) 公的団体、地域づくり団体やボランティア団体等から推薦を受けた者
- (2) 広報等により公募した者
- (3) 村長が特に必要と認める者

3 前項第2号の委員は、別記様式により応募した者の中から選考するものとする。

(会長及び副会長)

第4条 村民会議に会長及び副会長を置く。

2 会長は、委員の互選により選出し、副会長は、委員の中から会長が指名する。

(任期)

第5条 委員の任期は、村民会議を設置した日から村長への提言を行う日までとする。

(会議)

第6条 村民会議は、会長が招集し、会議の議長となる。

2 会長は、必要に応じ、関係者の出席を求めることができる。

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(グループ)

第7条 村民会議の所掌事務をより円滑に遂行するためグループを設置することができる。

(庶務)

第8条 村民会議の庶務は、総務課において処理する。

(その他)

第9条 委員へは費用弁償としての旅費及び報酬等の支給は行わない。

2 この要領に定めるもののほか、村民会議に関し必要な事項は、村長が別に定める。

附 則

この要領は、平成21年12月25日から施行する。

”ちはやあかさか”まちづくり村民会議委員名簿

平成22年6月12日現在

番号	氏名	地区名	備考
1	石橋 寿恵夫	吉年	
2	井藤 武	村内在勤 (水分)	
3	大西 清和	吉年	
4	大西 敏夫	千早	
5	大橋 秀光	村内在勤 (中津原)	
6	北野 義彦	水分	
7	吉良 基一	小吹台	
8	實近 博子	桐山	
9	永山 実海	川野辺	
10	二木 昭	小吹台	
11	西矢 武司	川野辺	
12	新田 寛	二河原辺	
13	伏井 貴美代	東阪	
14	堀田 和義	小吹台	
15	松岡 昭夫	小吹台	
16	宮本 榮信	中津原	
17	向井 万規子	村内在勤 (小吹台)	
18	安田 俊逸	小吹台	
19	嫁阪 敏幸	中津原	

五十音順で掲載しています。

(参考) まちづくり村民会議事務局

氏名	所属・役職	備考
前川 和夫	総務課長	秘書政策グループ T E L 72-0081 F A X 72-1880
松村 典英	総務課参事	
森田 洋文	総務課課長代理	
日谷 順彦	総務課係長	

平成22年4月30日まで

まちづくり村民会議 グループ別名簿

第1グループ		第2グループ		第3グループ	
番号		番号		番号	
1	大西 敏夫	1	井藤 武	1	石橋 寿恵夫
2	大橋 秀光	2	北野 義彦	2	大西 清和
3	吉良 基一	3	實近 博子	3	永山 実海
4	二木 昭	4	西矢 武司	4	松岡 昭夫
5	伏井 貴美代	5	堀田 和義	5	向井 万規子
6	宮本 榮信	6	安田 俊逸		
7	新田 寛	7	嫁阪 敏幸		

資料3

全体スケジュール

回数・日時	テーマ	方法・内容	獲得目標
① 3 / 7	・オリエンテーション ・ワークショップ体験	・趣旨、会議の運営方法等の説明 ・自己紹介、事務局紹介 ・第4次総合計画策定の概要、村課題等の概要説明(財政、懸案事項) ・グループ分け(3つ) ・ワークショップの説明と実施 ・自己PR ・村の良い点、悪い点について	全体会 グループ分け
② 3 / 20	・村の良い点、悪い点について ・のばしたいこと、問題点	・カード記入、模造紙にレイアウト ・グループ発表	グループ会議 全体会
③ 4 / 3	・アイデア出し	・カード記入、模造紙にレイアウト ・グループ発表	グループ会議 全体会
④ 4 / 17	・具体的にどんな活動をするか	・分類別にカード記入、模造紙にレイアウト ・グループ発表 ・行政が行うこと、村民が行うこと →提言書づくり	全体会 グループ会議 全体会
⑤ 5 / 8	・まちづくり提言書づくり	・住民アンケート報告(速報) ・各グループ毎の提言の共有 ・グループ発表	全体会 グループ会議 全体会
⑥ 5 / 22	・まちづくり提言書づくり	・各グループで10年後の村等の議論 ・グループ発表	グループ会議 全体会
⑦ 6 / 12	・まちづくり提言書の確認		全体会等
6 / 19	・村へ提言	・村長へ提言書提出 ・村長と委員との懇談	

第2回 まちづくり村民会議 記録			
日 時	平成22年3月20日	場 所	くすのきホール2階第1・2会議室
部 会 名	第1グループ	出席者	5名
■ 議論内容：○良いところ ●悪いところ			
立地、位置のギャップ ● 買い物ができるお店がほとんどない ● 交通の便が悪い		資源 ○ 緑が多い鳥の声がきこえる ○ 自然が多い ○ 伝統的なお祭り行事 ○ 金剛山の価値 ○ 何も無いことの良さ	
みのり ○ 野菜、みかんがたくさんとれる 他地区よりも遅れ採れる野菜に付加価値をつける地域差の利用 イノシシの肉を売ったら（レストラン） ○ すいせんの花 ○ ひがん花の景色 ○ 棚田 ○ 温かな人が多い ● 村の収入を図る計画に乏しい		人口のかたより ● 若い人が外へ出て行くのを引き止める施策がない ○ 学校が少人数で先生の目が届きやすい 子育て家庭への優遇処置をして若者人口を増やす	
一手 ● 村のホームページの不備 ● 観光事業PR不足		現状の評価 ● H28年以降収支見込が減速 職員のヤル気、将来性？ ● 不安感	
活用 年金組の利用（金、労力） 道の駅と農産物直売所の統合を ● 使用されていない施設の再利用がなされていない 廃校の有効利用 ● 小吹台に空き家が多い 空き家の活用、促進 芸術家の住める村 手作り村の形成。空き家利用につなげる 空き地が多い。再利用 ● 自然を生かしきれていない せっかく自然資源に恵まれていながら活用されていない（金儲けを。ガメツさを）		むらづくりの方法 ● 行政システム（姿勢）の問題 ● 村としての指導性がない ● 行政側に実行力、危機感がない ● 村の財政上のムダがある ● 公的な建物の活用 ● 村民の意志が十分反映されていない ● 村の動きが分からない ● 村内イベントの連携がない 今回の村民会議で一つでも実行できることをまとめる	

（行政改革）

役場の仕事内容の事業仕分けをやめる仕事！

事業の柱の確立、既存事業の見直し

職員の仕事の能率化

行政のトップが正しい判断と決断力でもって実行する強い姿勢が必要

財政を再確立するには、組織の変革が必要

- ・議員定数の削減

- ・行政の議員の若返り（新規採用もする）

観光を利用してお金儲けを考える

職員の意識改革

府を巻き込んだ事業展開

第3回 まちづくり村民会議 記録

日 時	平成 22 年 4 月 3 日	場 所	くすのきホール 2 階第 1・2 会議室
部 会 名	第 1 グループ	出 席 者	6 名

■ 議論内容 ●悪いところ ○良いところ

村財政の再

村の行政職員の若返り
村の財政上のムダを省く。人件費
村の台所をしっかりとる
・収入に応じた執行をする
・収入を村独自で増やす努力をする

財政 合併の失敗...心に...

教育が宝

人の「心」をたがやす

教育の見直し 村の地域性、自然がき
もちを生かす体験環境（生産、奉仕、
体験） 教育の特色をもつ

人づくり

村の人資源をみつめる
人を活かす→千早赤阪塾の設立

若者の定着 ・子育て支援
医療の無料化等による

連携する仕組

現在村の中にある NPO 又は近いグル
ープを集計して資金のバックアップで活
動を活発化

グループのリストUP

連携を呼掛けるイベントを 3 回 / 年
年間を通じて人集めの出来る棚田での
イベント計画を作る

整備と活用の計画をつくる

- 農業祭
- レンゲ祭

広域の連携も

元気のある
汗を流せる
既存組織の活性化

- 村が荒み出している - 活性化する
- 村に「自信」が持てない

これまでの取組から反省を踏まえて導く→4つの場で検討→バラバラでよいのか

構想のつくり

村民会議 職員 議員 アンケート

提案

資源を活かす

金剛山を府のシンボル化計画
金剛山へ滞留する仕組づくり
観光協会の活性化
観光施設の連携
○散歩コース(自然) 楠弁当 ラジオウ
オーキング
○犬の運動場公園
・金を残す

○自然がある 「水」

観光の振興

道の駅と農産物直売所の統合
→くすのきホールにまとめる
地場のものを置く

間伐材の有効利用
チェンソーアートの推進
大学生と行政のタイアップ

地域性をいかした農作物の生産
○タケノコ

特産物を作る→口コミで人は集まって
くる
○楠弁当

廃校の利用 観光客だけでなく村民の
雇用にもつながる
大阪芸大とのタイアップで「空き家」も
利用できる

空き家活用(小吹台)
・学生、単身者向け下宿先作り

民間企業との協働
(例) たこまさの村おこし

第4回 まちづくり村民会議 記録			
日 時	平成22年4月17日	場 所	くすのきホール2階第1・2会議室
部会名	第1グループ	出席者	5名
[議論内容] ・全体会議で第1グループは 村民事業おこし 村民連携の二題が与えられ議論を行った。 ・先ず、持ち寄った「アイデア提案」を各自発表し、 村民事業おこしの議論につなげ、いかに村内での連携をつくっていくかの 村民連携の方法について深めた。 村民事業おこしについて ■ 観光を再び活性化させる ・基本は『金剛山』を活かす：大阪府の宝・信仰の再発見 - 拠点をつくる： 今あるものを活かし・新たな拠点も導入していく 棚田（棚田百選）の活用 「棚田祭」として恒例化 ライトアップなどの工夫や農業祭の連携 案山子コンテスト行事（イベント）で人が集まる・ふるまい・リピーターを拡大する 村民との交流もなければならない：体験型交流 ：一過性の課題： 交通渋滞など村民とのトラブルも課題 風呂（金剛の湯）をつくる 金剛山の観光の拠点とする：物産館・山小屋など総合拠点 建設事業費の捻出・地権者の協力取り・民間企業誘致・村の支援 温泉の掘削・間伐チップの活用 - 山林の活用 里山の活用 多様な資源だが、里山ほど放置している 間伐と間伐材の活用 チップ カブトムシ発生 課題は、民有で個人利用の山林、生産林が主で針葉樹林が中心 山に雑木の導入・クヌギやもみじを育成する シイタケなど多様な資源となる - 交通から人の流れをつくる 村内の施設の回遊をつくる 資源価値をあげ、入込み客を増やし、連携して→収入の拡大を図る PR に工夫、新聞の活用、バスの活用 - このことから、まず「人とグループ」を集める ■ 村民が動く ・村民が一体となって活動し「村民パワー」を全開にする ・このため豊富な資源人材を集め一緒になって動く活動をつくる - 「手づくり村」づくり を始める			

豊富な資源を活用し新たな資源を生み出す、あるものを活かす村民の運動
 手づくりをとおして集まりアーティストを呼び込み、千早赤阪「手づくり村」を創設
 空き施設・用地・農地の活用
 村民があらゆる施設を活用し連携して活力をつくっていく 「場」をつくる
 廃校の利用
 民家：空民家バンク制度：村が関わり連携（信用供与）
 小吹台：「学生」の下宿として貸す→「大学」との連携につなげる
 空農地の活用：体験型農業講座として：貸すのに村の協力必要
 学校・大学の連携をつくり出す
 村民パワーを活かす・村人も交流人も
 中高年パワーを呼掛け・集め・活かし合う：旧村のシガラミ注意 とっかかりが重要
 小吹台パワーもある
 - 元村民の中高齢者層の「帰ってこい運動」を起こす
 若者・大学生パワーを導入し活かす：タイアップ→大学連携につなげる
 - このことから「交流」をつくる
 ■ 本もののメニュー開発と提供に取り組む
 ・ 先ず、地味から始める
 ・ そして良質な人を呼び
 ・ メニューを工夫して、魅力を高め、増やし、地域の関連を多様につくっていく
 - 「ちはやあかさか村あそ歩」を提案し 交流を始める
 ウォークラリー、ツアーの企画：大阪あそ歩を参考に、
 千早赤阪村の歴史・自然・物産と四季の良さを紹介
 千早古道の活用 ・マップづくり：保存会の協力
 食の楽しみを充実
 トレッキングのノウハウを伝える
 やわらかなイベントの工夫と連鎖
 一期に大量に人が押し寄せる形から連鎖して、常時の楽しみの拠点に
 山歩き（トレッキング）のメッカを目指す
 情報の発信
 あらゆる手段で情報をつくり発信する：村のホームページから変える
 - このことから「情報」の入手・整理・発信に
 ■ 既存施設の活用再生に取り組む
 - 「道の駅」と「直売所」の連携から始める
 「道の駅」の充実と「農産物直売所」の連携をつくる
 「自然休養村管理センター」も連携する
 雇用・村の収入源として大切

あるものから活かす、つなげる、広げる

このために、既存の活動や施設や資源を活かし始める

観光ワーキンググループの協力をつくる

郷土料理を集め、新たな料理もつくる

村の弁当をつくる

農協加工部の協力も得て

村の特産を集める

チマキ・キビダンゴ・つけもの・みそ

草餅・ずんが餅(くるみ餅)・枝豆・柿葉寿司・凍り豆腐

カブト虫も取れる

既存の祭りを活かす

農業祭(2年ごと)・農業フェスティバル(毎年)を活かす

村祭りの活用

楠木正成のイベント活用

- このことから「既存の祭や施設」をまきこむ

村民連携について

・私たち村民が始める：村民・グループが先行して動く

■ 村民ネットワークを設立する

・村民事業興しから

- このことから、まず「人とグループ」を集める

- このことから「交流」をつくる

- このことから「情報」の入手・整理・発信に

- このことから「既存の祭や施設」をまきこむ

をとおして、人の流れをつくり、つなぎ、千早赤阪村の村おこしに取り組む

このため村民組織「手づくり村民ネットワーク」を設立する

目的は、村民から動き、「農」「林」「水産」「工芸」の創造的息吹を創り出す

そこから、観光協会などの協力を創っていく

役場が支援しはじめる

高齢化に直面する千早赤阪村の村民交流による

若者へバトンタッチ

人材の育成

新しい産業の創造に立ち向かう

千早赤阪村の人とグループ、それに連携する人とグループなどの多様な頑張りを連携

ネットワーク型の連携の基盤として「学習機会の共有」「情報の共有」のシステムを持つ

情報化時代に対応した、スキルを駆使する

第 5 回 第 6 回 まちづくり村民会議記録			
日 時	日時 平成22年5月8日 平成22年5月22日	場 所	くすのきホール 2 階第 1 ・ 第2会議室
部 会 名	第 1 グループ	出 席 者	

[illegible]

④誰がするのか

各グループ活動経過《第2グループ》

第2回 まちづくり村民会議 記録			
日 時	平成 22 年 3 月 20 日	場 所	くすのきホール 2 階第 1・2 会議室
部 会 名	第 2 グループ	出 席 者	5 名
■ 議論内容 村のよい点、悪い点			
よい点		悪い点	
(自然・環境・歴史)			
○ 自然が多い(緑が豊か) ○ 空気が良い(空気がうまい) ○ 水がきれい ○ 景色が良い ○ 歴史的な遺産が豊富 ○ のどかな環境			
(生活)			
○ 静かである(騒音がない) ○ 人が少ない ○ 村がコンパクトである		● 生活しにくい ● 生活用品店がない(店がない) ● コンビニがない ● 医院が少ない ● 高齢者の移動に便利な足がない ● バスの運行時間帯が狭い ● 交通不便 ● 道路不備 ● 医院が少ない	
(村のイメージ)			
○ 一冊の絵本のような村 ○ 大阪府唯一の村 ○ 大阪府のふるさと ○ ゆったりと時が流れる			
(村人の気質)			
○ 封建的ではない		● 村に特徴が少ない ● 個性がない ● 閉鎖性 ● 封建的でない ● 回りの人たちの顔色を見ている	
(産業)			
○ 豊富な農地がある ○ 農作物が豊か ○ お米がおいしい ○ 農民の方が個人のブランドに目覚め元気 ○ 農業を大切に考えている人もいる		● 空き家農地の斡旋がされていない ● 村の特産物がない ● 農産物の販売所が少ない ● 道の駅が小さい ● 観光的な場所が少ない	
(コミュニティ)			
○ 消防団は活動している ○ 祭りや花火がすばらしい ○ 村のしきたりを守れば受け入れてくれる		● 子供会が成り立たない ● 世話をする人が決まっている ● 村というより都会的なコミュニティ ● コミュニティのつながりは希薄化	

(子育て)	
○ 優しい子ども達がいる村 ○ 生徒数が少なく先生の目が行き届く ○ 子ども達の学歴が上がっている ○ 山村留学の受け入れ	● 子どもが少なくなり地域に活気がない ● 子育てしやすくない(保育所・学童遠い)
(土地利用)	
○ 自由に使える公共の土地がある ○ 活用可能な公共施設がある ○ 休耕地の活用ができる	
(行政など)	
	● 行政職員の意識の公務員化 ● 行政サービスの低下 ● 議会としての機能が不十分
(村づくり)	
	● 村おこしを考えている人が少ない ● 改革のリーダーの不在 ● 元気がない ● 村の宣伝が十分されていない ● 村を売り込む意識がない ● 若者達が帰ってこない ● 60歳以上の村外への転出(転居)が多い ● 廃校利用など十分に検討されていない
(提案)	
・ 廃校を利用して千早赤阪村でクラフト展を行う ・ 廃校を利用して芸術家をよぶ(工房を探している人やアトリエを探している人は多い) ・ 菜園付きの週末住宅の需要はある ・ 空き家を活用する ・ 就農支援センターの設置 ・ 村づくり課の設置	

第3回 まちづくり村民会議 記録

日 時	平成 22 年 4 月 3 日	場 所	くすのきホール 2 階第 1・2 会議室
部 会 名	第 2 グループ	出 席 者	8 名

■ 議論内容 ●悪いところ ○良いところ 提案

子育て

- 小学生の親が住みやすい村
- 教育の中で小学生から道徳
- 保育所
- バス運行

人口維持の対策
高齢者対応
現役対応
子育て層対応

巡る

役場から電動自転車レンタル
登山口より下りのみのレンタル自転車
登山口にシャワーやロッカー施設を作る
シャープ パナソニックとの連携で(企業PR)
観光ルート
各バス停をテーマにそったもので作る

農

千早産ブランドを立ち上げが必要
定年退職者による農業復帰、農地活用
休耕地、放棄地の貸し出し
休耕地の再利用により若い世代を村に呼び戻す PR 活性化
農家の元気作り 販売所を地区的にふやす

川の活用

管理釣り場 自然を活用
河川の利用
川歩き
水車でモチをつく
千早川にバーベキュー場をつくる
市川清掃→千早でも実施
川、村里のそうじ
○ホタル

行政

- 住民の村づくり参画相談センター(村づくり班の常設)10年間
継続性のある行政

廃校 空き家

教育支援の村として 村づくり

山村留学復活
不登校生徒家族
給食センター(自前のとりくみ)

廃校利用

廃校利用のために
空家利用を巡る
立地性 京都 奈良 大阪 神戸
芸大のアトリエ 貸アトリエ
クラフト展 教室を貸すなど
芸大とのネットワーク
空家活用に行政にも関わらない
空家を行政管理して貸し出す
○軽トラ市
○309号特産店

金剛山

観光税
1000円/人で、年間280,000千円になる
自然保護の協力金
金剛山登山者の入山税を頂き、村財収入にして住民にお手伝いをして頂く
金剛山の利用 通行税
山の管理につかう
登山道維持ボランティア協力

新しい顔

PR

楠正成公の村としてもっとPRする
名しょう地のそうせつ
ex もみじを植える（将来に向けて）
大阪一（日本一）の側面をつくる ふ
るさと千早赤阪奉建塔やくすのきホール
付近を花、さくらの自然公園化
特徴ある店を何軒かほしい
空家を利用した飲食の集合
手堀りトンネル→ミステリーツアー
バンジージャンプ 東阪から奥
町にない祭りをもっとアピール 1 村に
来て頂ける村にする

組織作り

NPO法人の受皿づくり
農業団地のせいび
千早の天気などを写真家達にメール送信サービス
I, T, Cのかつよう H, Pの新
せつ

自然の水を売る

第4回 まちづくり村民会議 記録

日 時	平成 22 年 4 月 17 日	場 所	くすのきホール 2 階第 1・2 会議室
部 会 名	第 2 グループ	出 席 者	5 名

■ 議論内容

村のイメージづくり

- 「大阪のふるさと」
- 「いつまでも住みつづけられる生涯村 千早赤阪」
 - ・対象者は子育て、現役、高齢者
- 「安心して働くことができる生活村」
- 「教育文化村」
 - ・村の収入源確保、農業小規模集団（10軒以内）と個人、生活農園づくり
- イメージを実現するために必要な対応
 - ・谷をまたぎ、村を横に動くことができる交通の確保
 - ・地域運営による地域別の店、施設の誘致
 - ・村営保育園の地域別設置

村民事業おこし

村づくりのための事業会社づくり

- ・村行政ができない組織で、議会を通さな
- いで即効性を持ち、実行する組織
- ・立ち上げが可能な小規模集団の組織
- ・有志で起こし、村が支援する
- ・NPOでも可
- ・事業としては、景観、産業に関する新たな条例をつくる 等
- ・事例：丸亀商店街（高松市）

情報

- 「市民大学」(カルチャーセンター)の開
- 講
- ・千早小学校跡地の活用した情報発信基地
- ・行政から村民へ主体の移管によることにより話題づくりを
- ・若者に運営をまかせ、JAへの賃貸も可能
- ・多様なアイデアの箱づくりのイメージ

農地の確保 空家施設

- 眼下に消費者（大阪府民）が目に見える
- 村の立地条件を生かす
- 余った土地を村が買いとってストック
- し、集約化し、若者につかってもらう
- 定年退職者の帰農、新しい就農者の組織
- づくり
- 仕事の無い若者を対象とし、定年退職者
- も呼び戻す
- 全国から募集、特区的な位置づけで、村
- が紹介して発展させる
- JAの活躍の場として位置づける
- 農機具等はシェアリング方式で

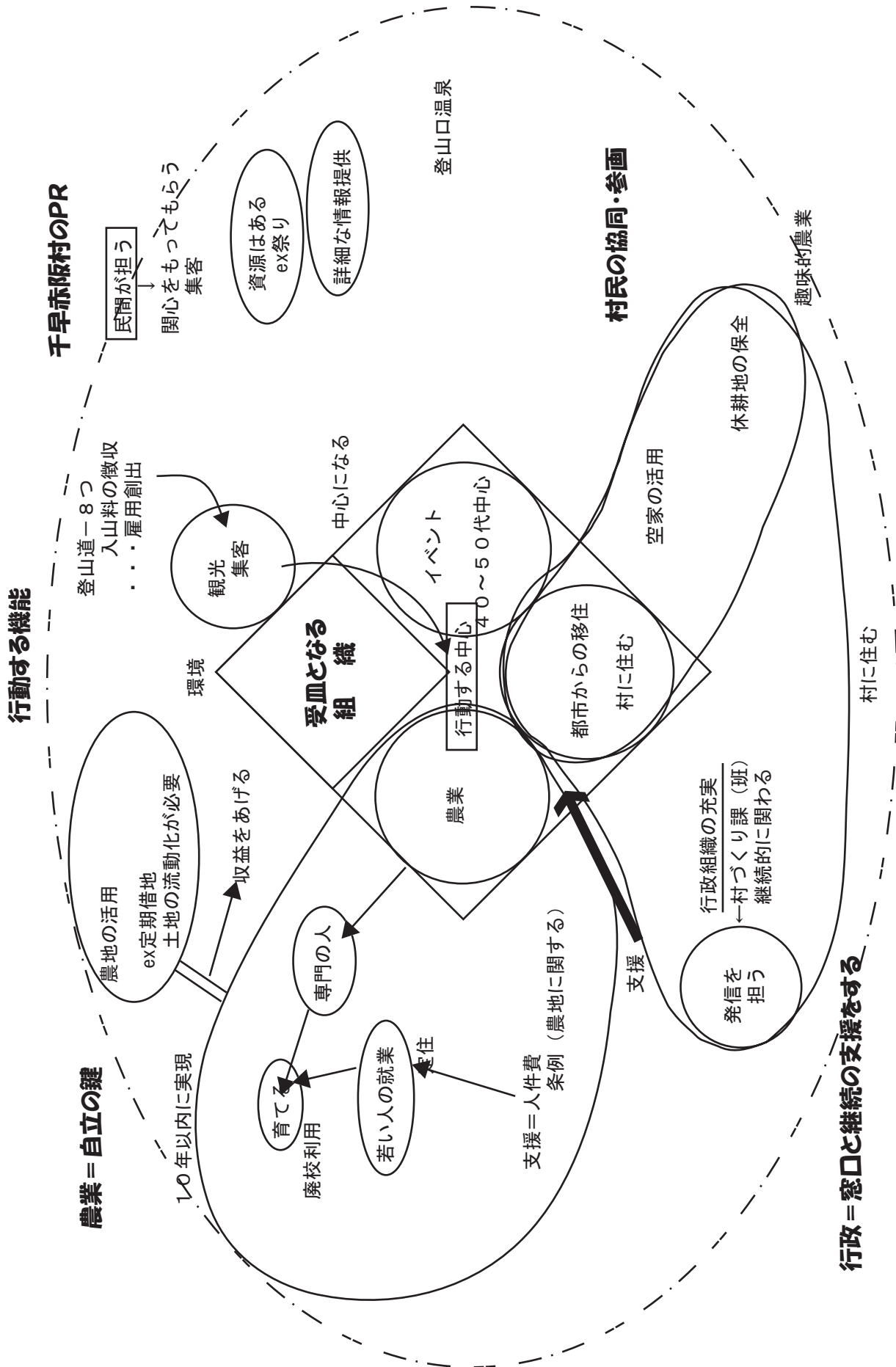
地産・地消 環境保持の構想

- バイオマスビレッジ
- ・地産地消、省エネ村
- ・5～10年後までみこしておく

村の役割

- 村づくり課（班）を常設する
- 住民支援相談センターを設置する
- 村づくりの費用は必要

第5回 第6回 まちづくり村民会議記録			
日 時	日時 平成22年5月8日 平成22年5月22日	場 所	くすのきホール2階第1・第2会議室
部 会 名	第2グループ	出 席 者	



第2回 まちづくり村民会議 記録			
日 時	平成 22 年 3 月 20 日	場 所	くすのきホール 2 階第 1・2 会議室
部 会 名	第 3 グループ	出 席 者	4 名
■ 議論内容 ●悪いところ ○良いところ 自然 ○自然がいっぱい ○緑が多い ○静かなところ ○熱帯夜がない ○空気がきれいで星がきれいに見える ○お散歩を楽しめる ○水が清い ○水がおいしい ●山の木が間伐されずに残っている 活用がない 切る人がいない - CO2 吸収量の減少 花粉の飛散など 産業 ○千早川を幹用水路が配置 ○第一次農作地 段々畑 活気 ●排他的 ●元気がない ○高齢者と言われる年齢が元気 ●30代、40代の参加が少ない - 練習したことを披露する場 交通・インフラ ●不便 ●店がない ●買い物が不便 ●ゴースタウン化している ●夜道が怖い ●交通が不便 ●高齢者の交通手段がない 提案 歴史・文化 ○なわとび ○秋祭り、春祭り・・・地車 神楽、おもちまき（世代間で） ○伝統行事に皆で参加できる ○校区別は盛り上がる（徒競走は特に） ○歴史の宝庫である ○大楠公城跡・・・ 千早城、上東阪城、下東阪城 ○村は農山村 ○金剛山を中心に杉＋桧の山林 ○金剛山が近くにあり登山を楽しめる 人・教育 ○教育の村発展 ●子ども会活動に対する保護者の理解がない（役員になりたくない etc） ○子どもが素直 ○おじいちゃん、おばあちゃんが子育てに参加してくれる ○幼稚園、保育園、小学校の頃からの躰が良い中学生を育てている ○子どもの学習態度が非常に良い ○中学校の部活動が大変活発（高校に入っても全国レベルの選手を出している） ○少人数で少ない数のクラブだが府下でも優秀 ○学校教育 徒歩通学 ○お兄ちゃんお姉ちゃんに教えてもらえる ○近隣の人々の顔が見える（役場も含めて） ○住みやすい ○親しみやすい ○一人一人にていねい			

○福祉について話題が出なかったのは、日常の助け合い、ボランティアが生きているから？

第3回 まちづくり村民会議 記録

日 時	平成 22 年 4 月 3 日	場 所	くすのきホール 2 階第 1・2 会議室
部 会 名	第 3 グループ	出席者	4 名

■ 議論内容

人を育てる

最も重要

行事などによる世代間
住宅を増やす
学校教育の一貫 幼児 小学校 中学
校 家庭教育
スポーツ大会

村の資源を活かす

村の歴史とガイドボランティアを
有効活用 人を呼ぶ工夫
郷土料理
タケノコ
どう生かしていくか
休養村センター
ビアガーデン
喫茶
郷土料理
道の駅を今の位置から、車通りの
多いところへ移動する
地産地消（道の駅を有効に活用）
金剛山の入山料を取り、村が経営

人や物の資源を活かして不便さを
補い、安心して住めるむら

コープのようなカタログ販売を行う
一人暮らしの人への配食サービス→も
っと安心できる村を P R

自然エネルギーの活用と環境学習

自然エネルギー公園を作る（水力、風力、
火力）
IT 企業を誘致する
炭焼き 切り炭 竹炭→売れない
大阪府下の小・中学生
体験学習
間伐材の利用（蒔きストーブ）

おいしいお水を活かす

菊水の活用
おいしい水で作ったおいしいお米
菊水米
水分神社の宮司に御願いしてもら
い付加価値をつける

人が集まるだけではダメ
バラバラで活動している
みんなで一生けんめい取り組む
村の人の意見・アイデアを聞き出す
とにかく動く

取り組むにあ
たって

第4回 まちづくり村民会議 記録

日 時	平成 22 年 4 月 1 7 日	場 所	くすのきホール 2 階第 1・2 会議室
部 会 名	第 3 グループ	出 席 者	5 名

■ 議論内容 ● 悪いところ ○ 良いところ

提案

人を育てる人の「心」をたがやす

【現状】

- 思考が停止している
- プレーキをかける
- 大阪府民の施設 千早にはない
インフラ整備
↳ 交通網
- ケイタイ電話
↳ 頼りすぎ
↳ 情報にふりまわされる
- 自由をはきちがえている
- PR の仕方がヘタ
- 給食がおいしい

【目的】

教育充実で村を変える

教育の充実
↳ あのかくに住みたい
子育てしやすい村のイメージを PR する
小中一貫共同目標
家庭教育
若い人が入ってきやすい環境
良い子たちがこの村ですっと住みつづけて欲しい

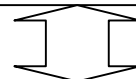
【どうしたらいいか】

自然環境を生かした教育
校区ごとに持ちまわりで活動
PR の仕方によってもっと人は集まる
読み書きそろばんだけ子供に身につけさせるか
村独特の教育の中味
教育方針
↳ 村の方針を変える
小中一貫で英語を小学校から教える
もちまき
↳ 魅力ある行事で人は集まる

インパクトのあるアイディア

住民は何をすべき

あいさつ
朝ごはん
読書
紙芝居や読み聞かせ
↳ 読書に親しむためのきっかけづくり
自分の感覚を磨く
村民ボランティアの活用
親の教育
責任



行政は何をするべき

- あいさつ
- 笑顔がない
- 親切心すぎない（面倒を見過ぎない）
- 住民の活動を見守る

歴史・教育と健康

- P R には橋本知事に来てもらう
- 上赤坂城跡からの道路
- 自転車で探ルートを設定
- 放置自転車を活用
- 3 km 5 km 1 0 km コースの設定
- 歴史探訪と健康づくり
- 健康ちはやあかさか 2 1 を多キ台
- 医者いらす
- 目と心と体をきたえる
- 猫背
- ↳ 金剛山へ登って体を鍛えよう
- 楠公保存会の充実

第4回 まちづくり村民会議 記録

日 時	平成 22 年 4 月 1 7 日	場 所	くすのきホール 2 階第 1・2 会議室
部 会 名	第 3 グループ	出 席 者	5 名

■ 議論内容 ● 悪いところ ○ 良いところ 提案

自然エネルギー公園

千早川の豊富な水や森林資源を活かし自然エネルギー研修公園をつくる
大阪府民や子どもたちが地球温暖化やエネルギーについて学べる場

内容

登山口にある堰堤に風力発電機
薪炭ガス発電機
水力発電機 多聞地区の集落を流れる
千早川流域に設置
住民の電力を賄うモデル地区

住民は何をすべき

集まった人の憩いの場
特産品の販売

行政は何をすべき

販売や研修会の場の確保
観光課の設置 史跡めぐりツアーなどの企画

住民と行政が協働すべきこと

ガイドボランティアの指導内容やガイド内容について共に研究していく。

効果

大阪府民の憩いの場

自然の宝庫 歴史の宝庫である千早赤阪村の資源を活用し、
学べる大阪府民の憩いの場として集客が期待できる

まず人が集うことを考える

集まった人々がどうすれば村に利益をもたらしてくれるか
人が集うために資源の開発

堰堤



発電所跡



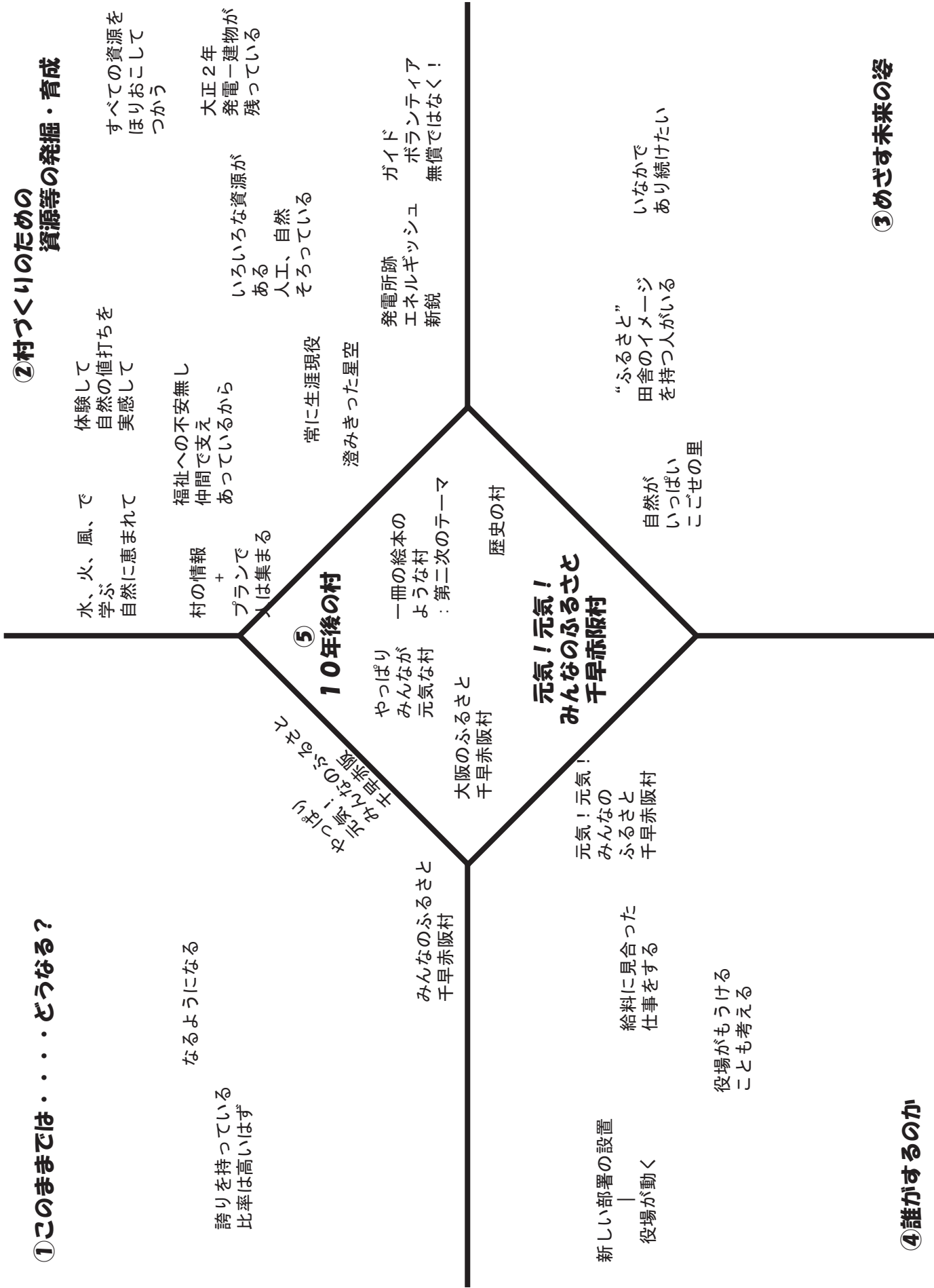
水仙



菜の花



第5回 第6回 まちづくり村民会議記録			
日 時	日時 平成22年5月8日 平成22年5月22日	場 所	くすのきホール2階第1・第2会議室
部 会 名	第3グループ	出 席 者	



ワークショップの風景



ワークショップの風景





第4次千早赤阪村総合計画策定に係る提言書